

# 天栄村 人口ビジョン

平成 28 年 3 月  
天栄村



# 目 次

I	人口ビジョンについて	1
	策定の趣旨	1
	天栄村人口ビジョンの位置づけ	1
	対象期間	1
	まち・ひと・しごと創生長期ビジョンの概要	2
	福島県人口ビジョンの概要	3
II	天栄村の人口動向の現状と見通し	4
1.	現状分析	4
	人口動向分析についての基本的考え方	4
	(1) 人口動向	5
	(2) 自然動態	8
	(3) 社会動態	10
	(4) その他の分析	13
2	天栄村の将来人口の推計	19
	趨勢人口と戦略人口	19
	(1) 人口推計の基本的な考え方	20
	(2) 天栄村の趨勢人口の見通し	20
	(3) 将来人口シミュレーション	22
3	天栄村における人口動向・構造の特性と課題	32
III	人口の将来展望	35
1	将来展望に必要な調査・分析	35
	(1) アンケートの実施概要	35
	(2) アンケートの結果概要	35
2	目指すべき将来の方向性	42
3	人口の将来展望	43
	(1) 戦略人口	43
	(2) 戦略人口に基づく将来展望	44
	(3) まとめとしての将来展望	48



# I 人口ビジョンについて

## 策定の趣旨

---

我が国では、2008年の1億2,808万人をピークに人口減少局面に入っており、今後も年少人口の減少と老年人口の増加を伴いながら、2050年に9,700万人程度、2100年には5,000万人未満まで減少するという推計が出されています。また、地域間経済格差等が、若い世代の地方から東京圏への流出、ひいては東京圏一極集中を招いています。

こうした背景に対応するため、「まち・ひと・しごと創生法」と「地域再生法の一部を改正する法律」が成立しました。この「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国では「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定、平成26年12月27日に閣議決定されました。

天栄村においても、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後本村が目指すべき方向性を示す「天栄村人口ビジョン」を策定します。

## 天栄村人口ビジョンの位置づけ

---

天栄村人口ビジョンは、人口の現状や人口の推計を分析することで、村の人口動向の特性と課題を把握し、目標とする将来人口と、将来人口に基づく将来の展望を提示するものです。また、同時に策定する「天栄村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」）の目標設定や、必要な施策・取り組みを検討する上で、重要な基礎資料となります。

## 対象期間

---

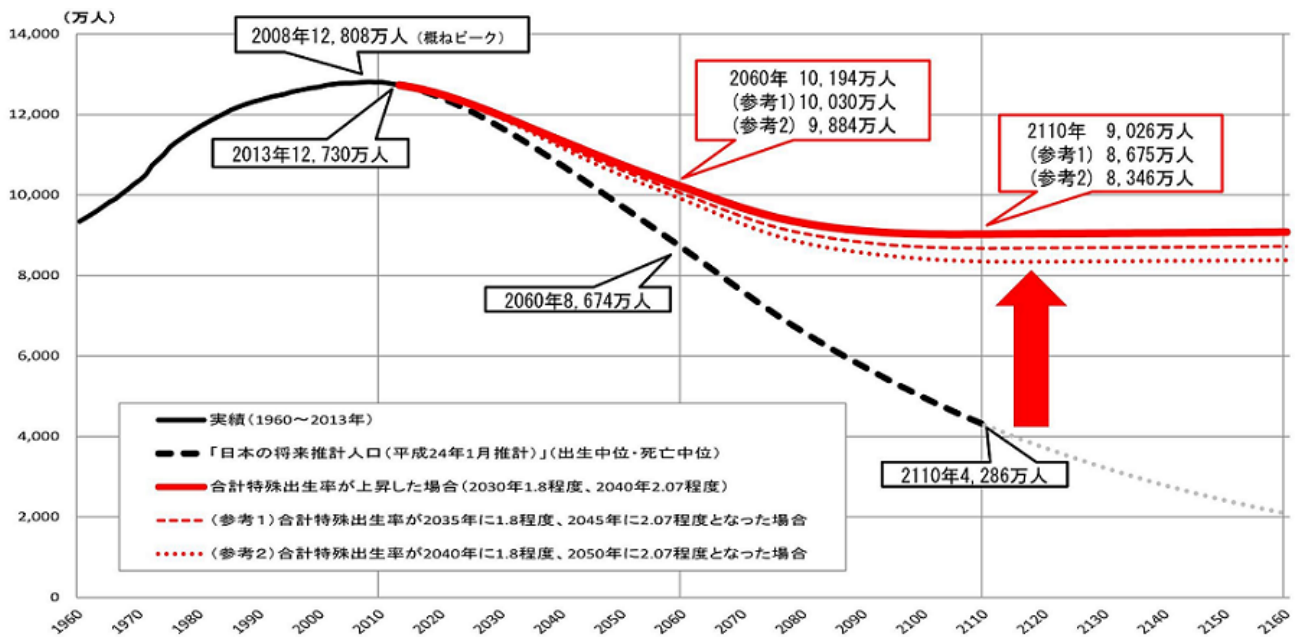
天栄村人口ビジョンの対象期間は、国の「長期ビジョン」と同じく、2015年から2060年までとします。

## まち・ひと・しごと創生長期ビジョンの概要

戦後、一貫して増加してきた我が国の総人口は、2008年をピークに減少に転じており、国立社会保障・人口問題研究所によると、2060年には8,674万人程度にまで減少すると推計されています。

今後、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度（2020年には1.6程度）まで上昇すると仮定した場合、2060年の人口は約1億200万人となり、長期的には9,000万人程度で安定して推移すると推計されます。

我が国の人口の推移と長期的な見通し



(注1)実績は、総務省統計局「国勢調査」等による(各年10月1日現在の人口)。国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」は出生中位・死亡中位の仮定による。2110～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において機械的に延長したものである。  
 (注2)「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度(2020年には1.6程度)となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

(国作成資料)

### 国の中長期展望 (2060年を視野)

#### I 人口減少問題の克服

##### 2060年に一億人程度の人口を確保

##### ◆人口減少の歯止め

国民の希望が実現した場合の出生率(国民希望出生率) = 「1.8」

##### ◆東京一極集中を是正

#### II 成長力の確保

##### 2050年代に実質GDP成長率1.5～2%程度維持

人口安定化、生産性向上が実現した場合

## 福島県人口ビジョンの概要

---

「福島県人口ビジョン」においては、『持続可能なふくしまの実現』を目指し、以下の基本的視点、人口目標を掲げています。

### 【 基本的な視点 】

- ① 「東京一極集中」を是正し、ふくしまへの新しい人の流れをつくる社会の実現
- ② 若者が雇用の機会に恵まれ、やりがいと安定した生活を得られる社会を実現
- ③ 若者の結婚・出産・子育ての希望に応えられる社会の実現

### 【 人口目標 】

～ 前提条件 ～

- 出生率：2040年に福島県民の希望出生率2.16人を実現（2030年=1.94）
- 移動率：2020年に社会動態±ゼロを実現

上記条件が実現した場合、福島県の人口は2040年に“162万人”を確保



**2040年に福島県総人口160万人程度の確保を目指す！**

## II 天栄村の人口動向の現状と見通し

### 1. 現状分析

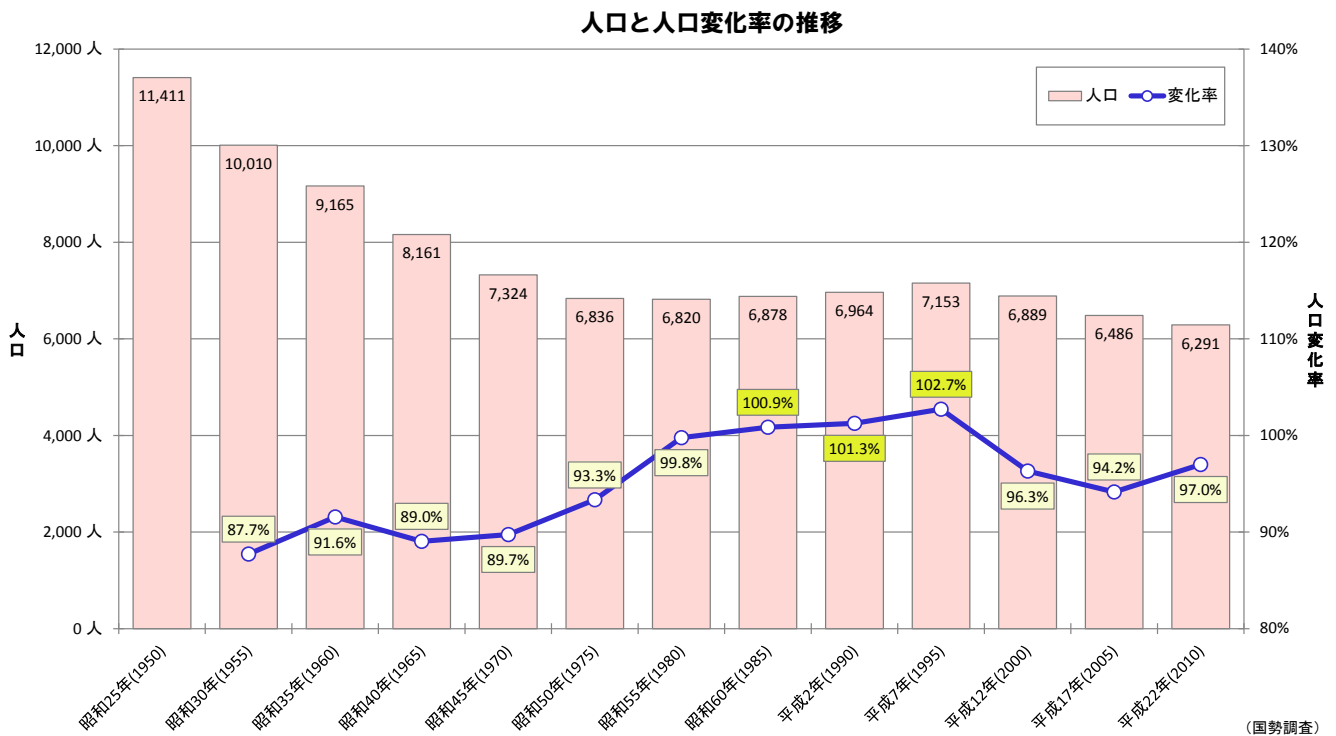
#### 人口動向分析についての基本的考え方

過去から現在に至る人口の推移を把握し、その背景を分析することにより、講ずべき施策の検討材料を得ることを目的として、時系列による人口動向や年齢階級別の人口移動分析を行います。

##### <総人口の長期推移>

昭和 25 年に 11,411 人とピークとなった後は減少傾向となり、昭和 55 年には 6,820 人となっています。この原因は高度経済成長期に伴い、首都圏等他地域への人口流出があったためと考えられます。

その後平成 7 年にかけて微増を続けましたが、平成 12 年には再び減少に転じ、平成 22 年は 6,291 人となっています。

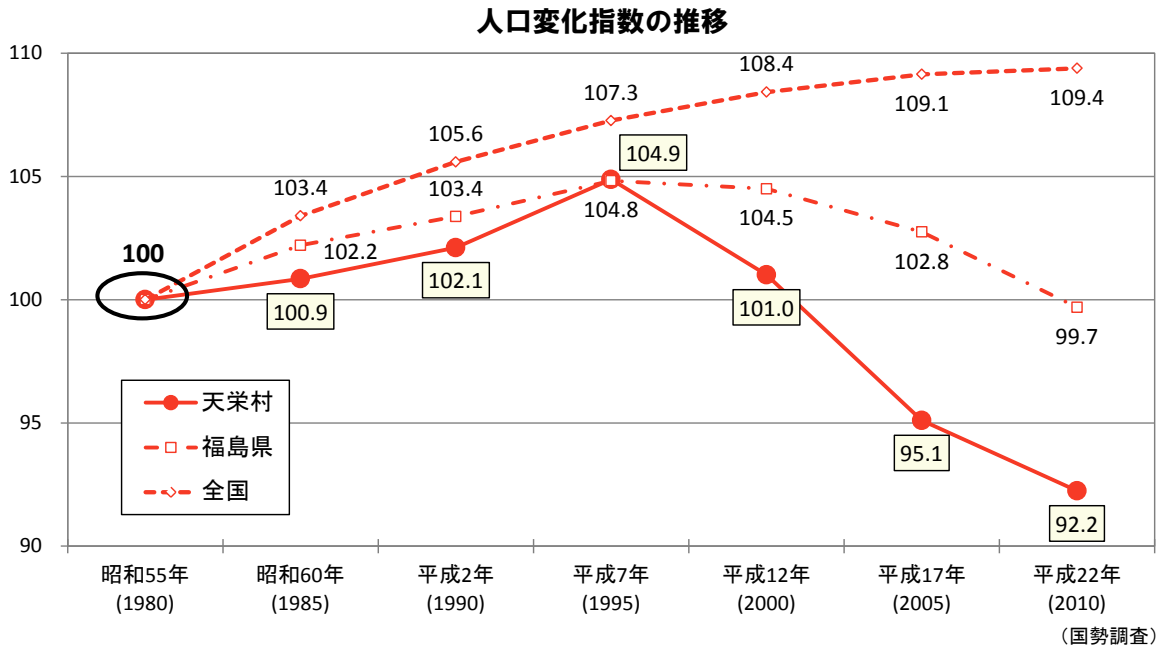




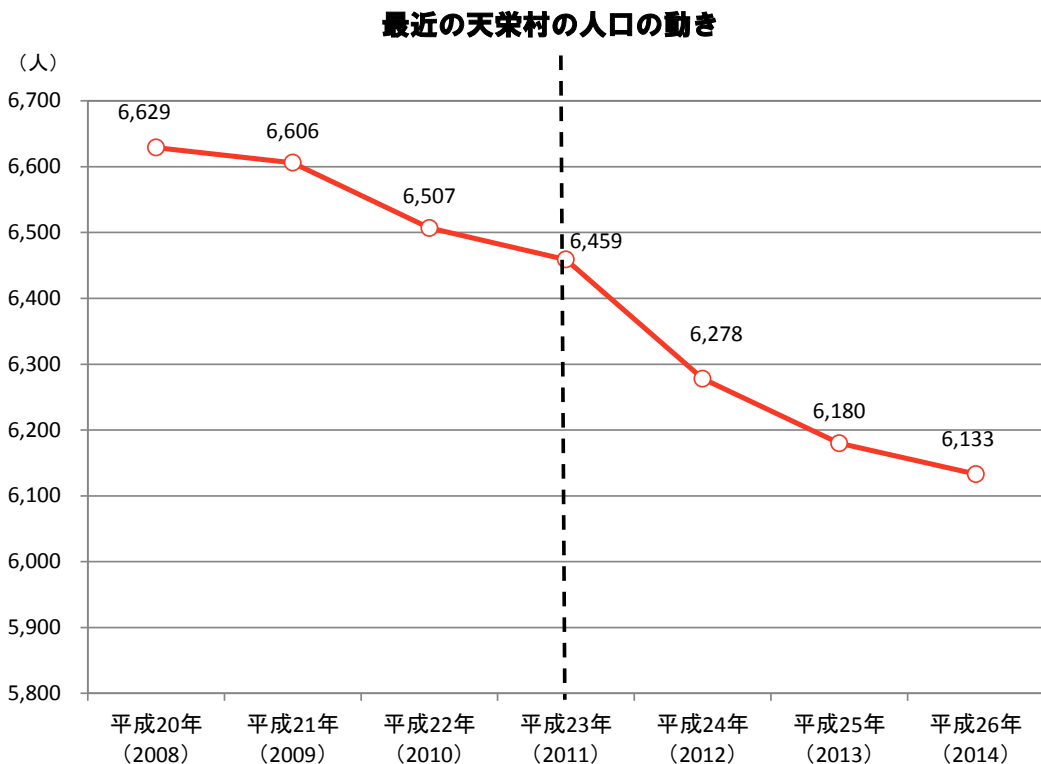
# (1) 人口動向

## ①人口変化指数

昭和55年の人口を100とした場合の変化指数の推移を全国・福島県・天栄村で比較すると、全国では平成22年がピークとなっているのに対し、天栄村は平成7年の104.9をピークに減少傾向で推移しており、平成22年には92.2となっています。



なお、国勢調査以降の平成23年3月に東日本大震災が発生し、天栄村にも大きな影響を与えました。前後の人口の動きをみると、より減少傾向が強くなっていることがわかります。

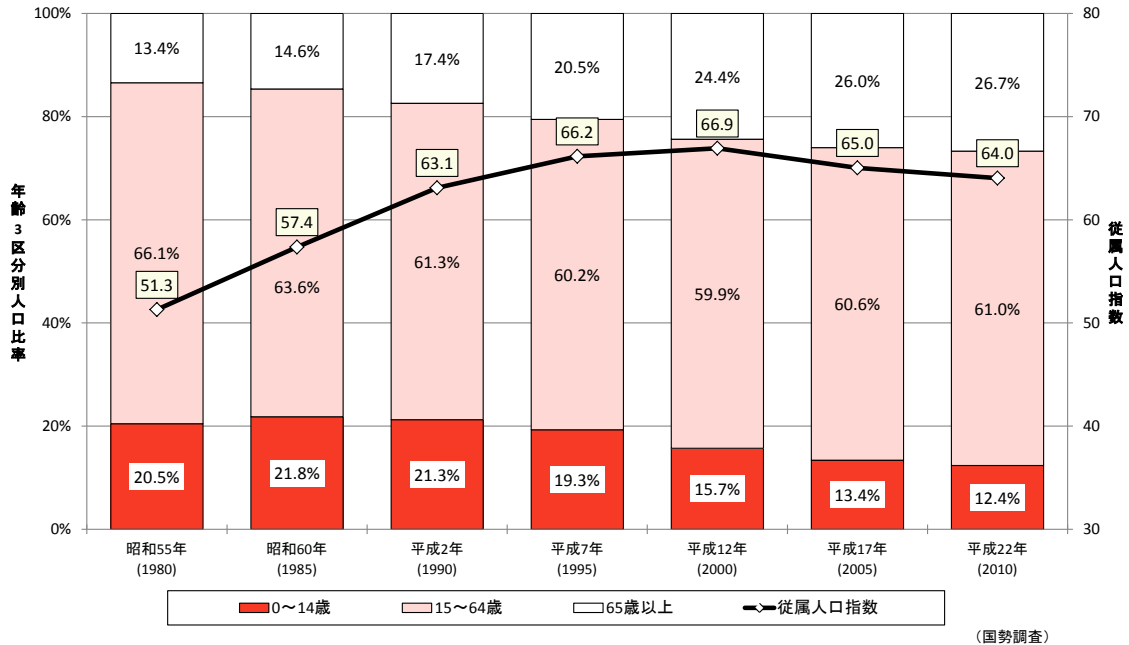


住民基本台帳 (調査期日は平成25年までは3月末、平成26年は1月1日)

## ② 人口構成比

年齢3区分別の人口構造の推移についてみると、老年人口が昭和55年の13.4%から平成22年には26.7%と30年間で13.3ポイント増加している一方で、年少人口は20.5%から12.4%と8.1ポイント減少しており、少子高齢化が進行していることがわかります。従属人口指数は、昭和55年の51.3から平成12年には66.9まで増加しましたが、近年は減少傾向となっています。

年齢3区分別人口構成と従属人口指数の推移

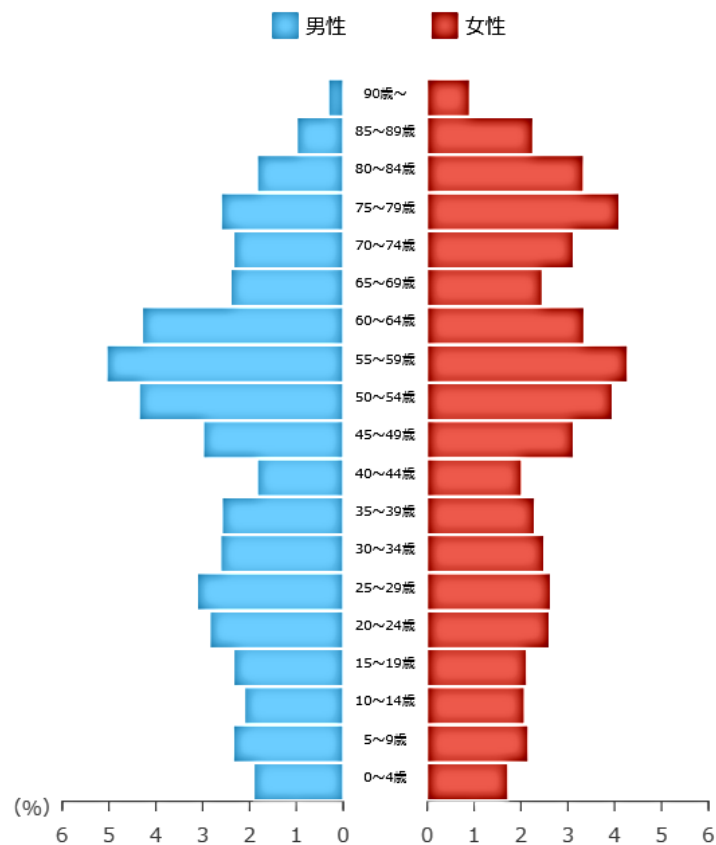


※従属人口指数とは、生産年齢人口（15～64歳）に対する年少人口（0～14歳）、老年人口（65歳以上）の合計の比率で、働き手である生産年齢人口100人が年少人口と老年人口を何人支えているかを示すものです。

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	
人口	年少人口	0～4歳	510	510	436	337	253	260	229
		5～9歳	481	508	528	485	351	266	284
		10～14歳	406	483	517	557	479	342	264
		計	1,397	1,501	1,481	1,379	1,083	868	777
	生産年齢人口	15～19歳	409	286	365	433	465	408	281
		20～24歳	528	374	263	304	369	338	343
		25～29歳	581	510	369	281	303	348	362
		30～34歳	437	569	520	422	258	290	322
		35～39歳	303	446	586	560	410	242	308
		40～44歳	363	299	443	596	551	395	243
		45～49歳	533	362	312	474	596	527	385
		50～64歳	1,354	1,525	1,412	1,235	1,175	1,382	1,591
	計	4,508	4,371	4,270	4,305	4,127	3,930	3,835	
	老年人口	65～74歳	582	604	718	906	963	834	650
75歳以上		333	402	495	563	716	854	1,029	
計		915	1,006	1,213	1,469	1,679	1,688	1,679	
年齢不詳		0	0	0	0	0	0	0	
総人口		6,820	6,878	6,964	7,153	6,889	6,486	6,291	
構成比	年少人口	0～14歳	20.5%	21.8%	21.3%	19.3%	15.7%	13.4%	12.4%
	生産年齢人口	15～64歳	66.1%	63.6%	61.3%	60.2%	59.9%	60.6%	61.0%
	老年人口	65歳以上	13.4%	14.6%	17.4%	20.5%	24.4%	26.0%	26.7%

(国勢調査)

平成 22 年の天栄村の 5 歳階級別の人口構造をみると、男女ともに団塊の世代を含む 50～64 歳の人口の割合が多くなっており、今後さらに高齢化が進むことが予測されます。



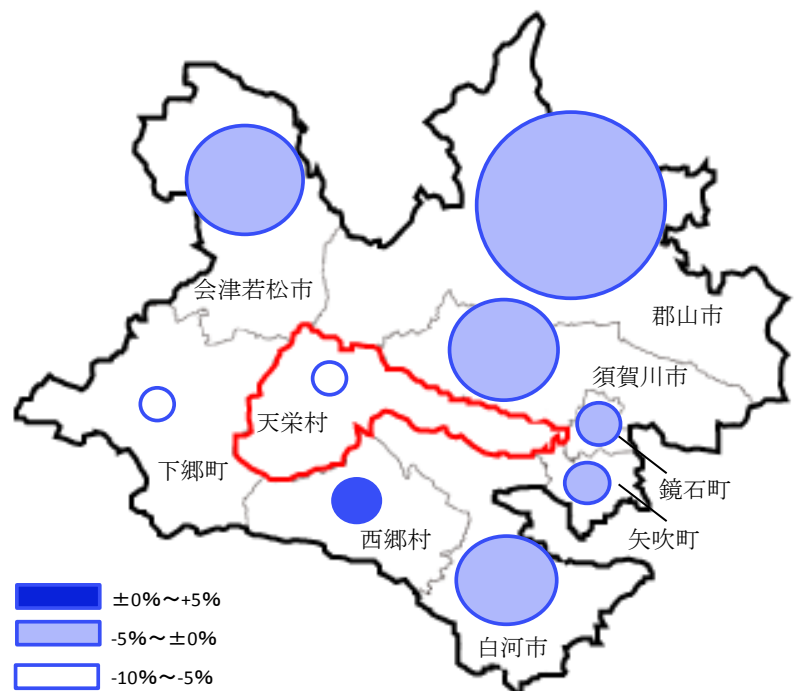
(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 人口マップ/人口構造人口ピラミッドより)

< 参考：周辺自治体の人口の動き (2010～2015 年の増減率) >

	人口(人)	増加率(%)
西郷村	19,959	101.10
鏡石町	12,879	98.83
矢吹町	17,769	98.14
会津若松市	123,790	97.76
白河市	63,186	97.47
須賀川市	78,299	97.44
郡山市	326,808	97.79
天栄村	6,065	93.21
下郷町	6,234	92.06

(住民基本台帳)

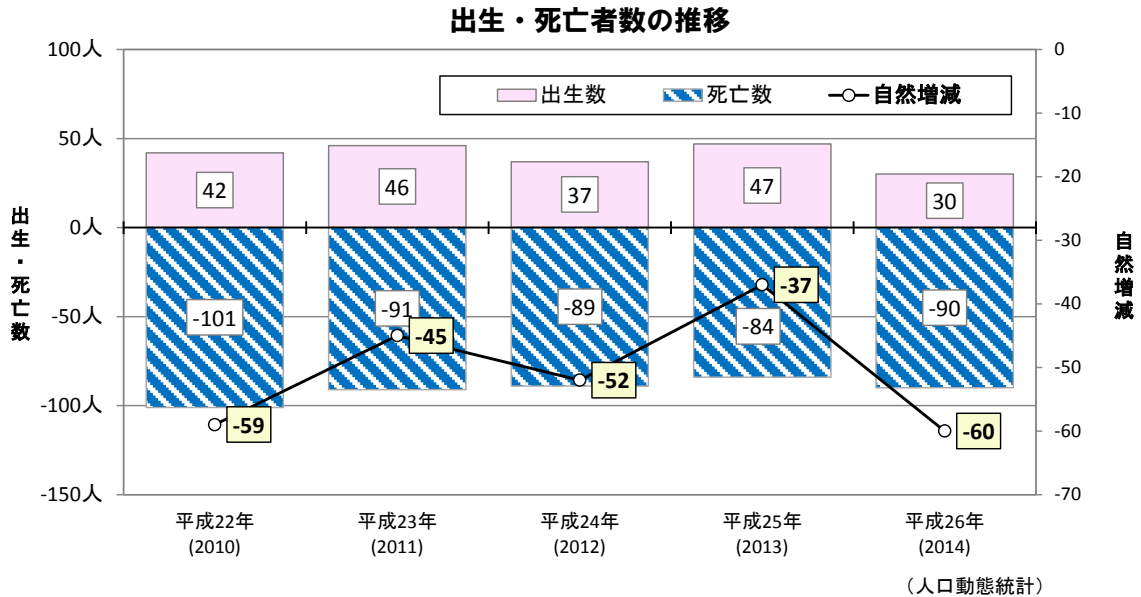
隣接市町村の人口規模・人口増加率



## (2) 自然動態

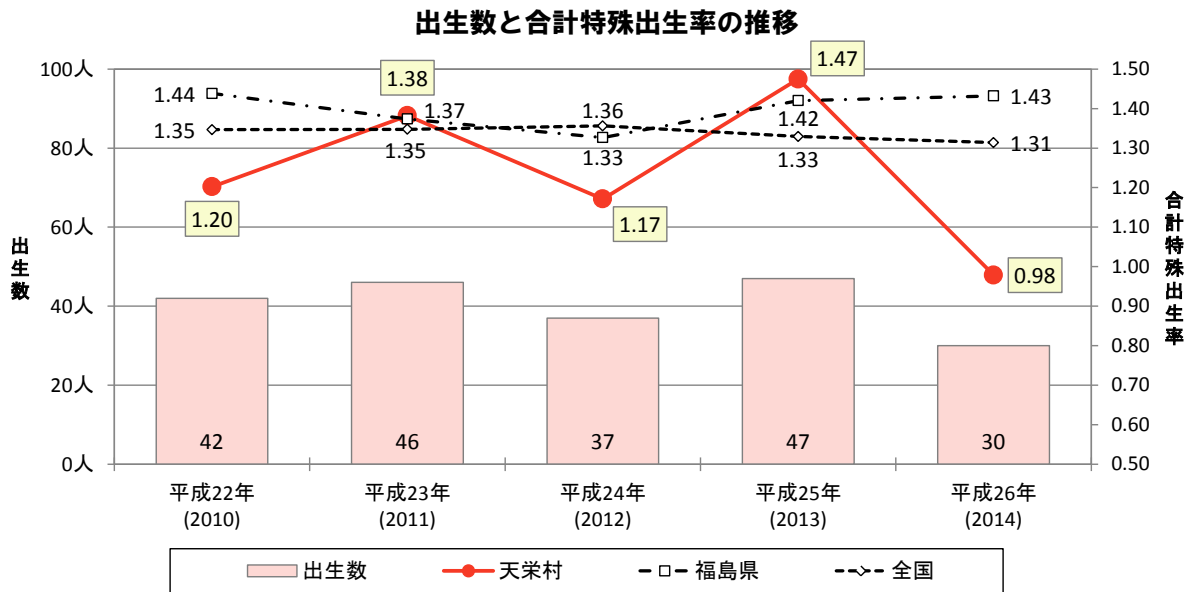
### ① 出生・死亡数の推移

平成 22～26 年の 5 年間の出生・死亡者数をみると、出生数は減少傾向、死亡数はほぼ横ばいとなっており、平成 26 年には-60 人の自然減となっています。5 年間の自然増減の平均は-50.6 人となっています。



### ② 出生状況

平成 22～26 年の 5 年間の合計特殊出生率の推移をみると、全国・福島県は、ほぼ横ばいで推移していますが、天栄村は増減を繰り返しており、平成 25 年は全国・福島県をともに上回る 1.47 となり過去 5 年間で最も高くなっていますが、平成 26 年には 0.98 と最も低くなっています。



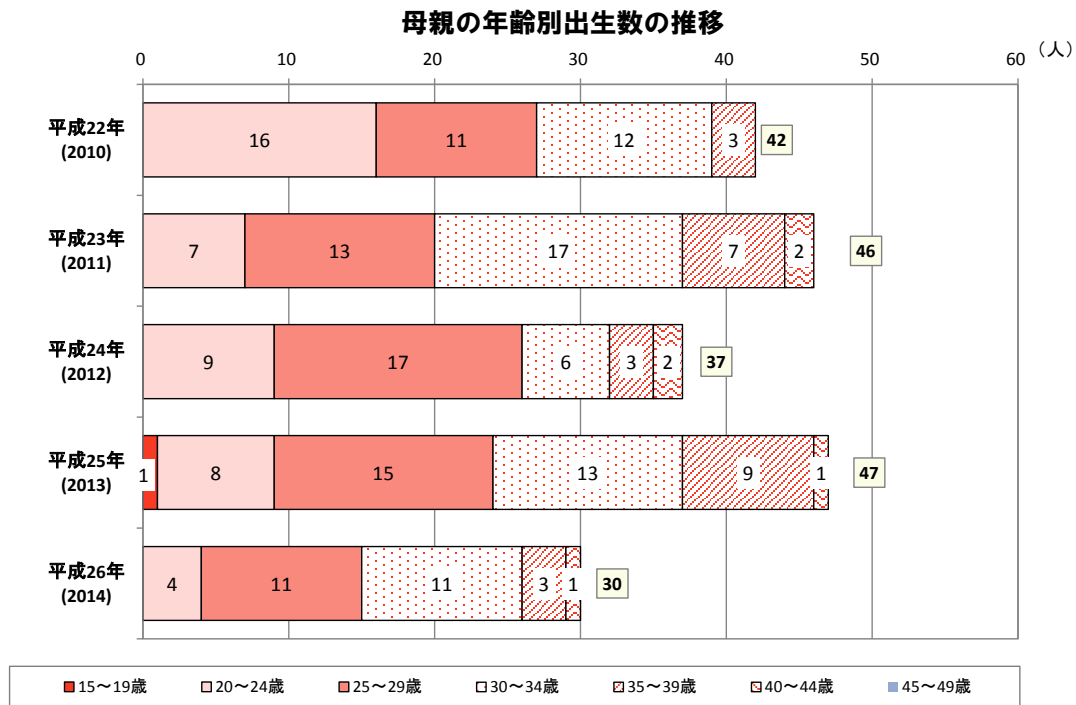
※出生数(人口動態統計)、女性人口(住民基本台帳)より算出

※合計特殊出生率とは、一人の女性が一生の間に産む子供の数の平均を表すものです。

～算出方法～

人口動態統計による母親の年齢5歳階級別出生数を、住民基本台帳(平成25年までは3月末付、平成26年は1月1日付)による15～49歳の5歳階級別の女性人口で除した値【(母親の年齢5歳階級別出生数/15～49歳の5歳階級別女性人口)×5】の合計

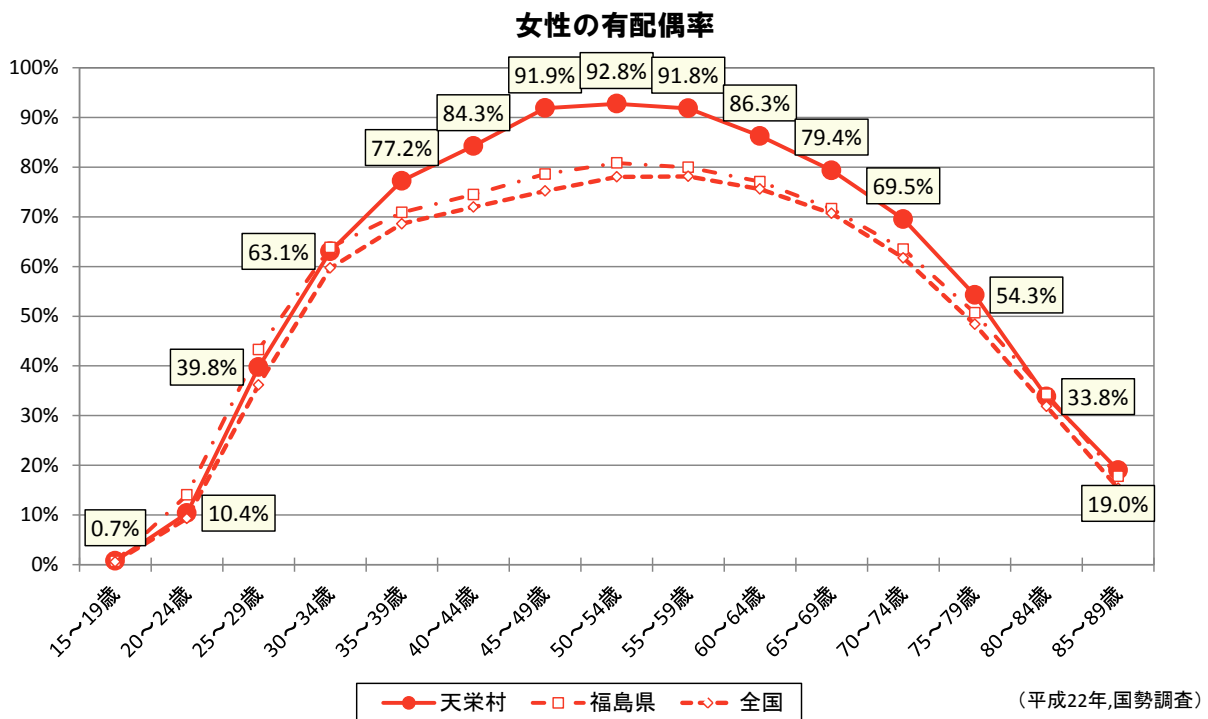
母親の年齢別出生数の推移をみると、比較的横ばいで推移していますが、平成24では、“30～34歳”が大幅に減少しています。



(人口動態統計)

平成22年の女性の有配偶率を全国・福島県・天栄村で比較すると、35～79歳のすべての年代で、全国・福島県に比べて天栄村の有配偶率が高くなっています。

我が国では出産の多くが嫡出子であることから、若い世代の女性の有配偶率が高いことは、出生数にも影響があると思われます。

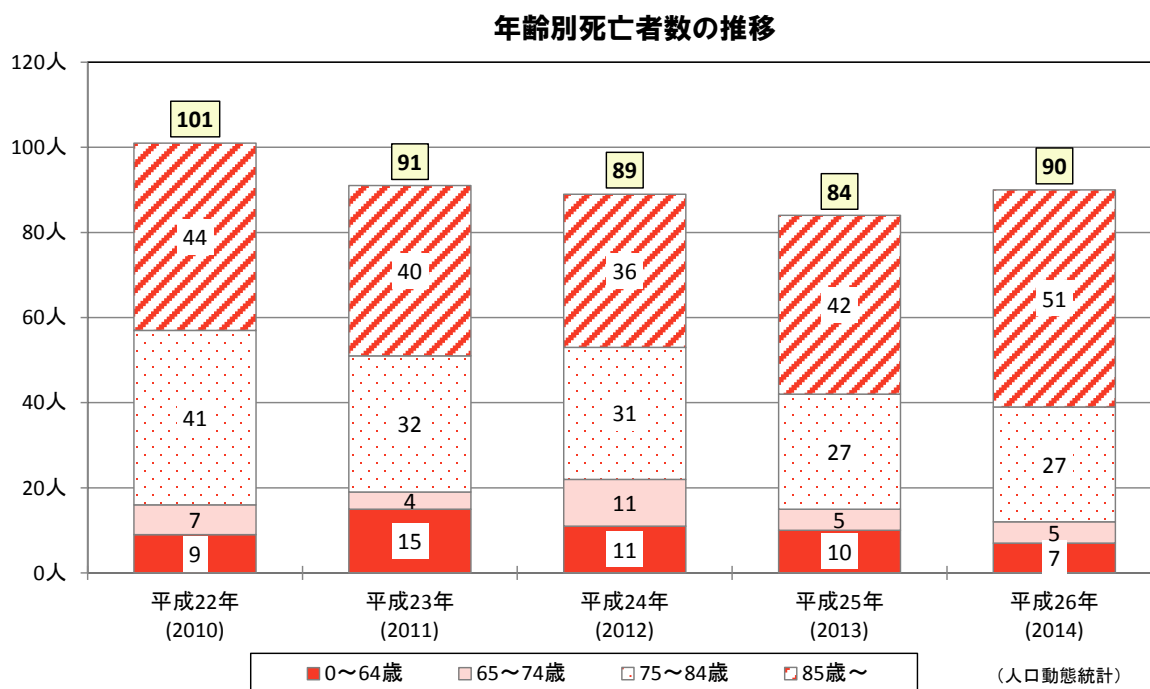


(平成22年,国勢調査)

～女性の有配偶率算出方法～  
 国勢調査による女性の有配偶数を女性人口で除した値

### ③ 死亡の状況

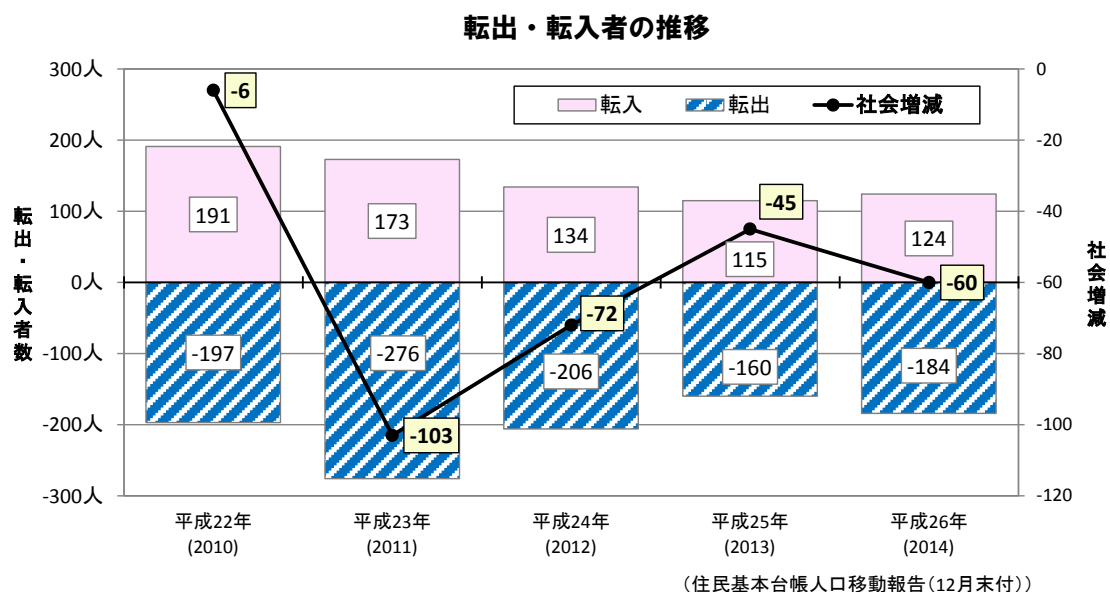
平成 22～26 年の 5 年間の年齢別死亡者数は 90 人前後とほぼ横ばいで推移しており、平成 26 年は 90 人となっています。また、各年 85 歳以上が占める割合が高くなっています。



## (3) 社会動態

### ① 転出・転入者の推移

平成 22～26 年の 5 年間の転入・転出者数をみると、転入者数は減少傾向で推移しているものの、転出者数は増減を繰り返しています。社会増減は一貫してマイナスの範囲で推移しており、5 年間の社会増減の平均は-57.2 人となっています。

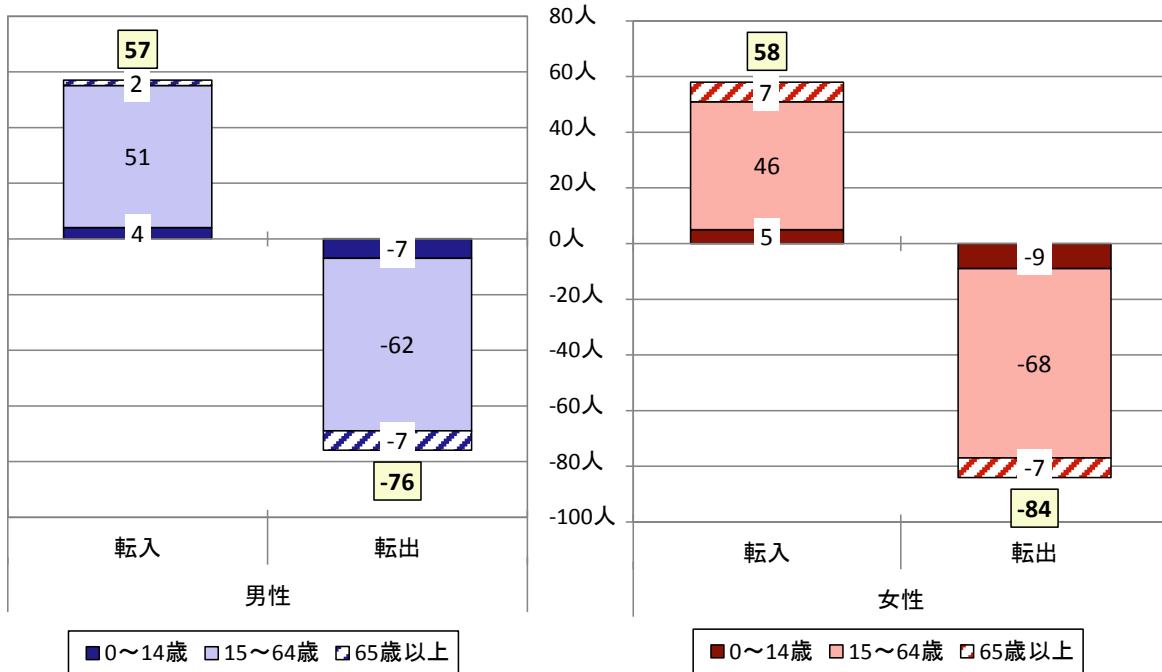


## ② 転入・転出の状況

<年齢別>

平成25年の転入・転出の状況を性別・年齢3区分別にみると、女性の“65歳以上”を除いたすべての年代で転出が転入を上回っています。

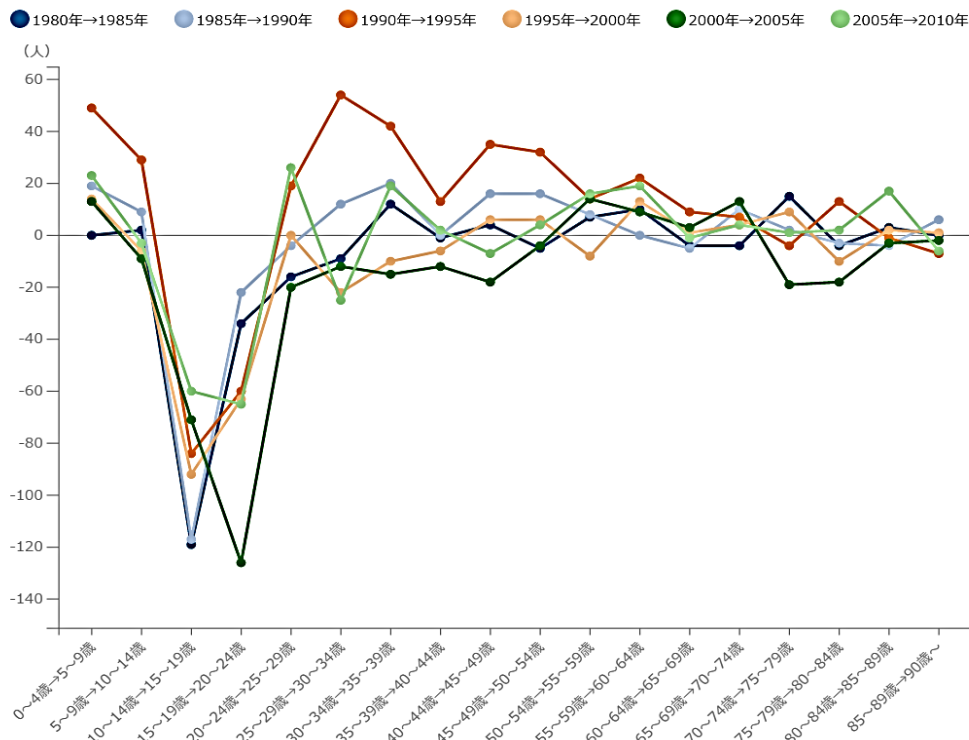
### 性別・年齢3区分別の転入・転出の状況



(平成25年,住民基本台帳人口移動報告)

年齢階級別純移動数をみると、近年は20・30代の移動が中心となっており、これは進学、就職、結婚等の移動を伴うライフイベントが要因であると考えられます。

### 年齢階級別純移動数の時系列分布



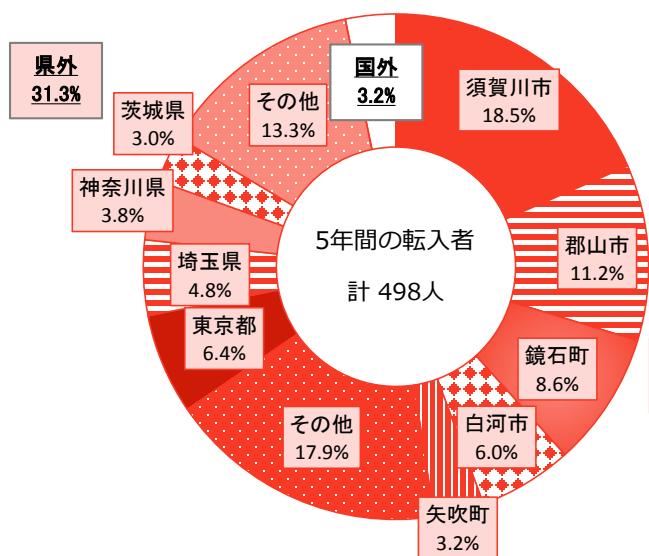
(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 人口マップ/人口の社会増減地域ブロック別純移動数より)

<居住地別>

平成 17～平成 22 年の 5 年間の転入・転出の状況を居住地別にみると、転入は県内が 6 割超で、須賀川市が最も多く全体の 18.5%、転出は県内が 7 割を占め須賀川市が 23.2%で最も多くなっています。

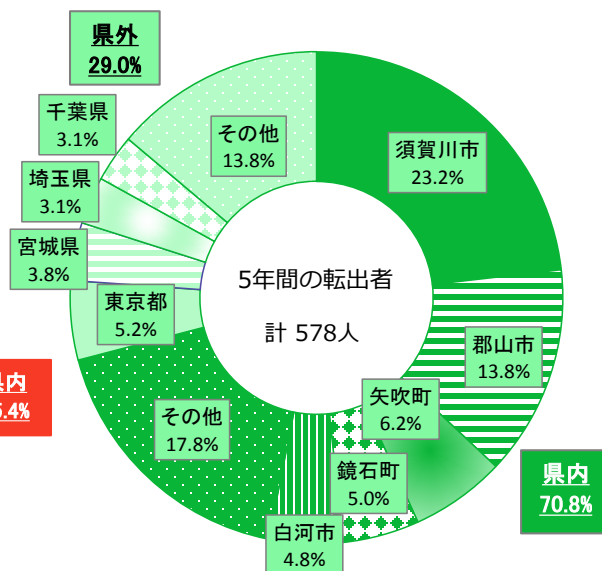
県外では、転入・転出ともに東京都が最も多くなっています。

転入の状況



(H22,国勢調査)

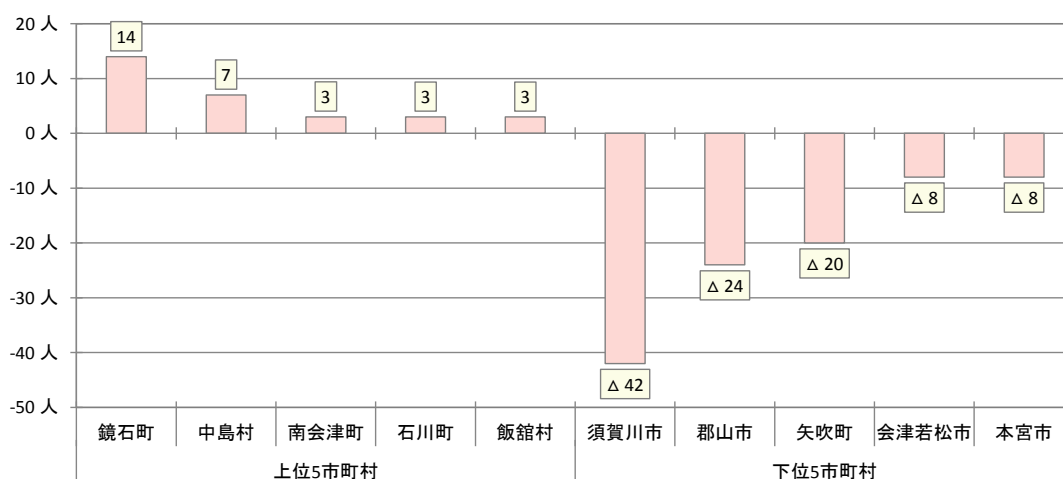
転出の状況



(H22,国勢調査)

さらに、天栄村への 5 年間の社会増減の状況をみると、転入超過数は鏡石町が最も多く +14 人、転出超過数は須賀川市が最も多く -42 人となっています。

天栄村への 5 年間の社会増減の状況（転入-転出）



(H22,国勢調査)

転入超過

転出超過



## (4) その他の分析

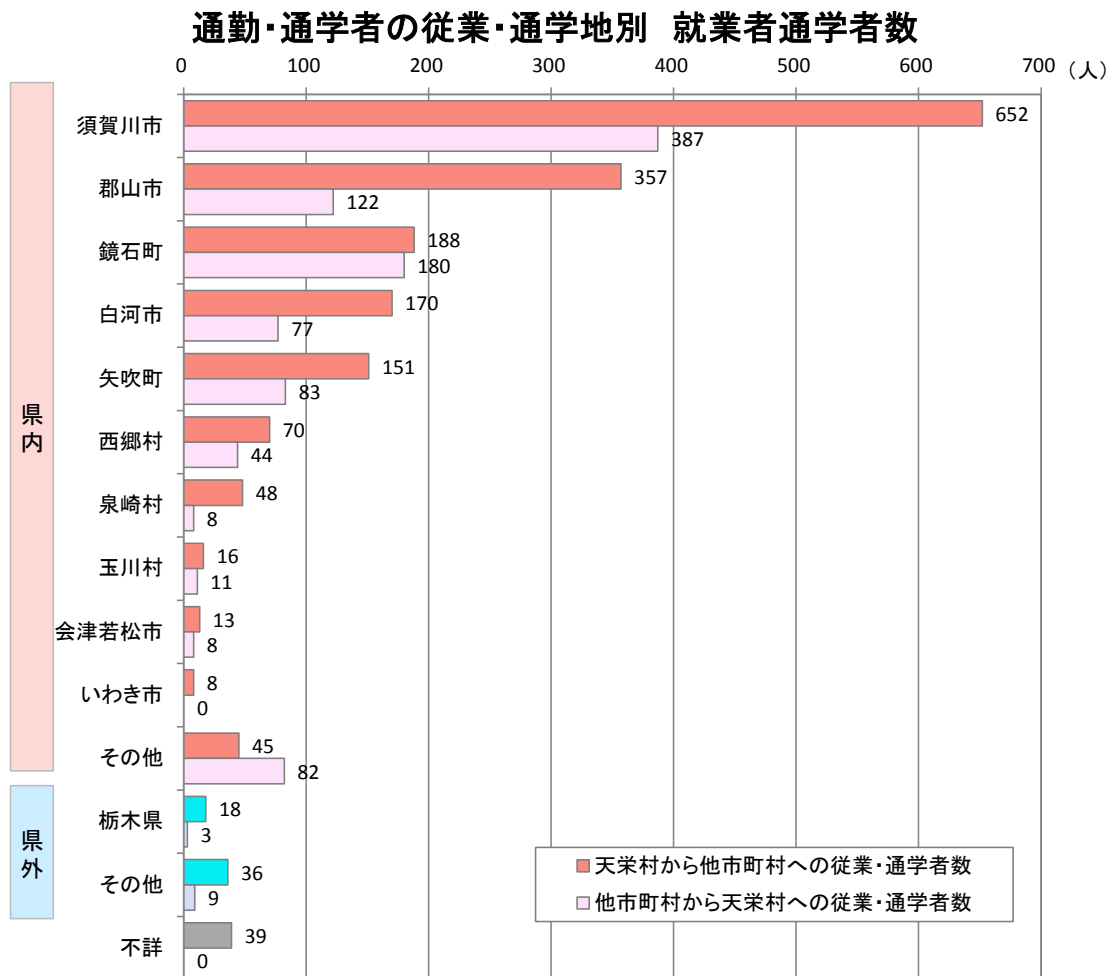
### ①通勤通学の状況

平成22年の村内在住の従業・通学者3,287人の従業・通学地をみると、村内に通勤・通学している人が1,475人(44.9%)、他市町村が1,811人(55.1%)となっています。

他市町村へ通勤・通学している人の従業・通学地をみると、県内が9割以上を占めており、須賀川市が最も多い652人(36.0%)、次いで郡山市357人(19.7%)、鏡石町が188人(10.4%)となっています。

また、他市町村から天栄村へ従業・通学している人の在住地をみると、須賀川市が最も多い387人(38.2%)、次いで鏡石町180人(17.8%)となっています。

区分	村内		他市町村		不詳	計
	自宅で従業・通学	自宅外で従業・通学	県内の他市町村で従業・通学	県外の他市町村で従業・通学		
男	404	433	1,006	61	1	1,904
女	273	365	712	32		1,382
小計	677	798	1,718	93		3,287
計	1,475 44.9%		1,811 55.1%			

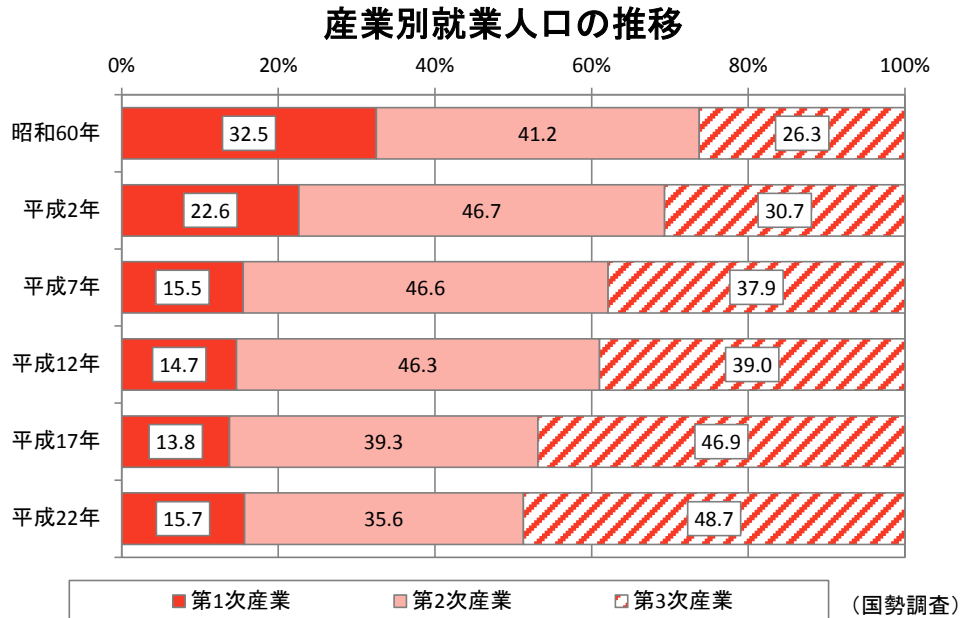


(平成22年,国勢調査)

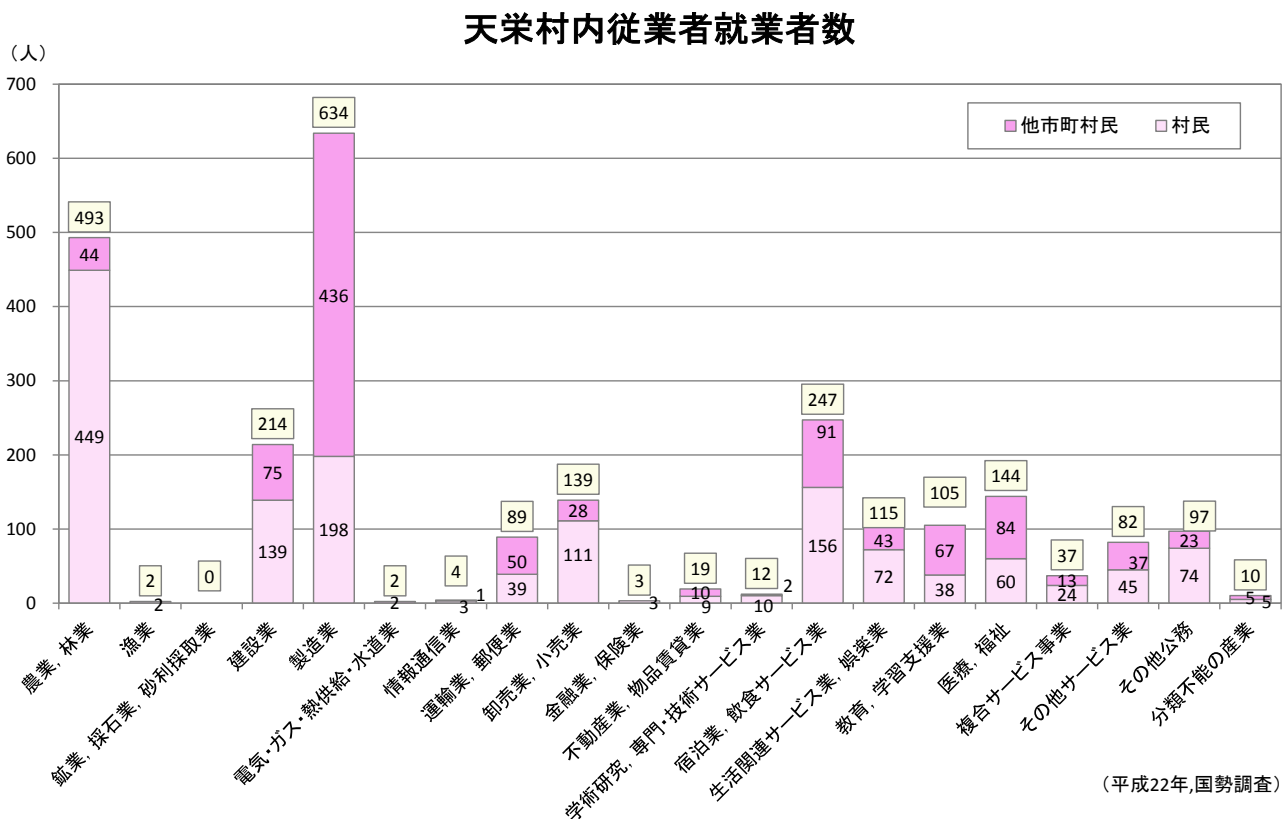
## ② 産業の状況

### 〈産業別就業者数〉

産業別就業人口の推移をみると、第3次産業の就業者数が大きく伸びており、昭和60年の26.3%から平成22年には48.7%と、ほぼ2倍となっています。一方、第1次産業は昭和60年以降減少傾向で推移していましたが、平成22年にはやや増加しています。



平成22年の村内従業者の産業別の就業者数をみると、「製造業」が634人と最も多く、うち村内在住者は198人(31.2%)となっています。次いで「農業、林業」が493人となり、うち村内従業者は449人(91.0%)となっています。

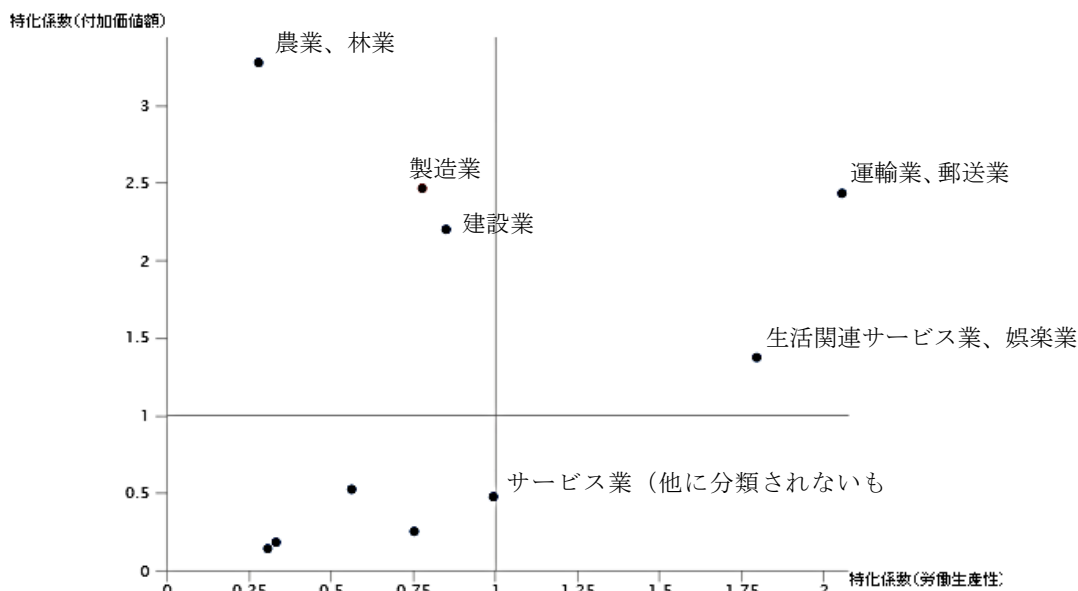


## 〈産業特化係数〉

産業特化係数とは、各自治体のある産業の比率を全国の同業者の比率と比較したもので、「1」を超えていれば、当該産業は全国に比べ特化している産業とされます。

天栄村における労働生産性と付加価値額における特化係数をみると、労働生産性では「運輸業、郵便業」が最も高く「2.05」、付加価値額では「農業、林業」が最も高い「3.28」となっています。

### 特化係数（労働生産性）×特化係数（付加価値額）



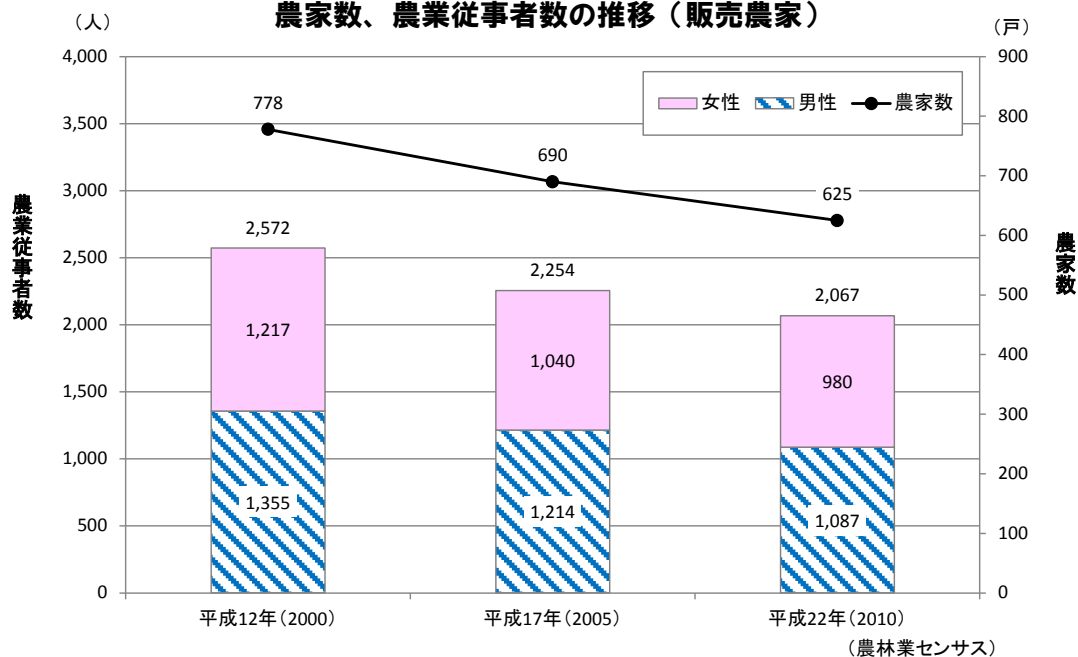
（経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）産業マップ／稼ぐ力分析（平成24年経済センサス活動調査を再編加工）より）

※付加価値額とは、売上高から原材料費や仕入費等を除いた額を表すものです。  
 ※労働生産性＝付加価値額（企業単位）÷従業員数（企業単位）

## 〈農業の状況〉

本村の基幹産業といえる農業ですが、農家数・農業従事者数の推移をみると、どちらも減少傾向となっており、平成12年～平成22年の10年間で、農家数は153戸、農業従事者数は505人減少しています。

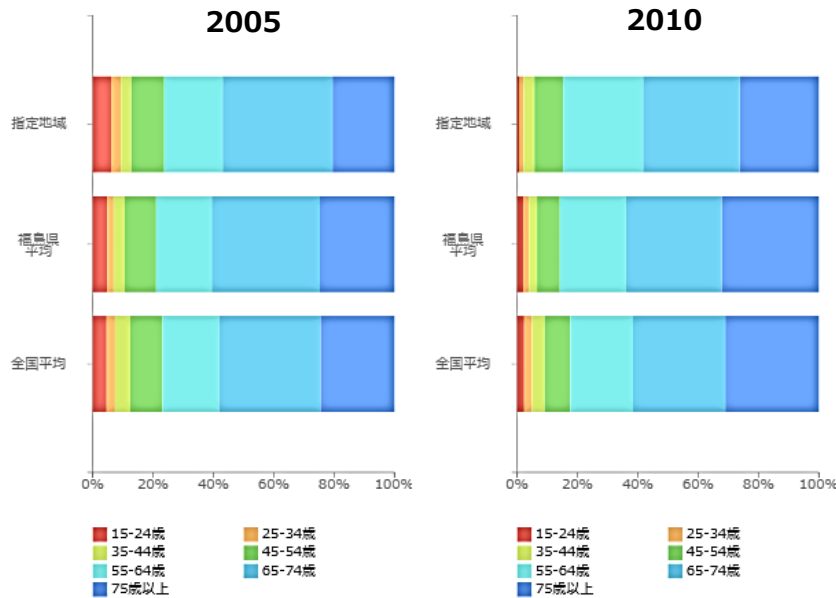
### 農家数、農業従事者数の推移（販売農家）



平成17年～平成22年の5年間の農業就業人口の年齢構成比の推移をみると、65歳以上の割合が、平成17年の57.0%から平成22年には58.3%に増えている一方、「15～24歳」は平成17年の6.1%から平成22年には0.7%と5.4%減少しています。

平均年齢は5年間で3.5歳上がり平成22年では66.1歳となり、国・県の平均とほぼ同じとなっています。

### 農業就業人口の年齢構成

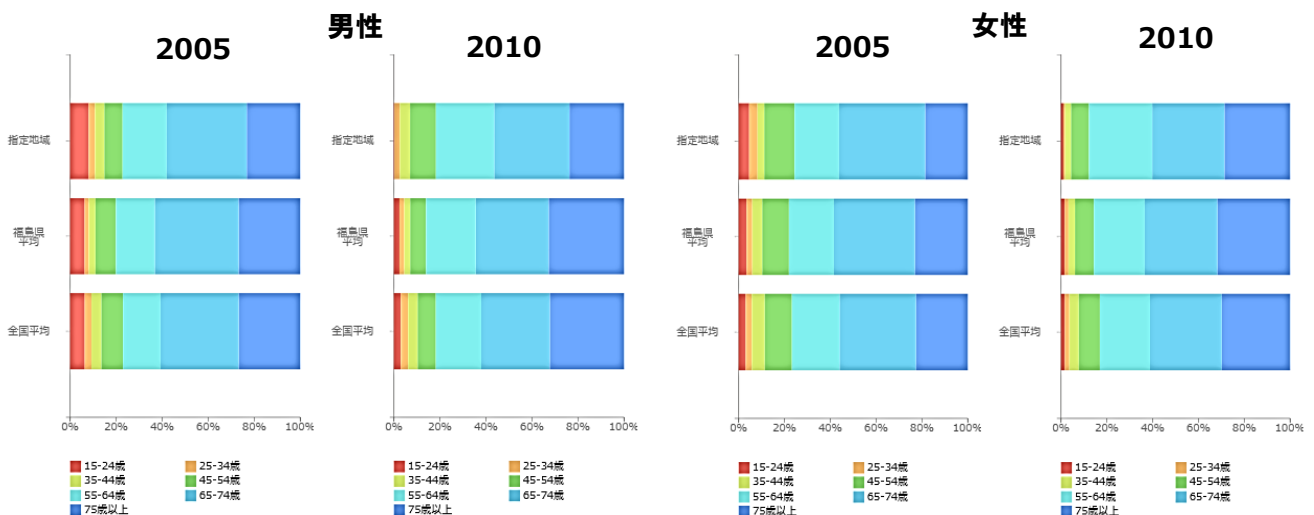


(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 農林水産業マップ/農業者分析より)

		15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	75歳以上	平均年齢
平成17年 (2005)	天栄村	6.1%	3.2%	3.4%	11.0%	19.3%	36.4%	20.6%	62.6
	福島県	4.8%	2.2%	3.7%	10.4%	18.4%	35.8%	24.7%	64.2
	全国	4.6%	2.8%	5.0%	10.7%	18.7%	33.6%	24.6%	63.5
平成22年 (2010)	天栄村	0.7%	1.6%	3.5%	9.5%	26.5%	32.1%	26.2%	66.1
	福島県	2.0%	1.9%	2.7%	7.6%	21.9%	31.7%	32.2%	66.9
	全国	2.4%	2.6%	4.2%	8.5%	20.8%	30.6%	31.0%	65.9
増減	天栄村	-5.4%	-1.6%	0.1%	-1.5%	7.2%	-4.3%	5.6%	3.5
	福島県	-2.8%	-0.3%	-1.0%	-2.8%	3.5%	-4.1%	7.5%	2.7
	全国	-2.2%	-0.2%	-0.8%	-2.2%	2.1%	-3.0%	6.4%	2.4

男女別の農業就業人口の年齢構成比をみると、増加率が最も高い年代は、男性では「55～64歳」、女性では「75歳以上」となる一方、減少率が最も高い年代は、男性では「15～24歳」、女性では「65～74歳」となっています。

### 男女別 農業就業人口の年齢構成

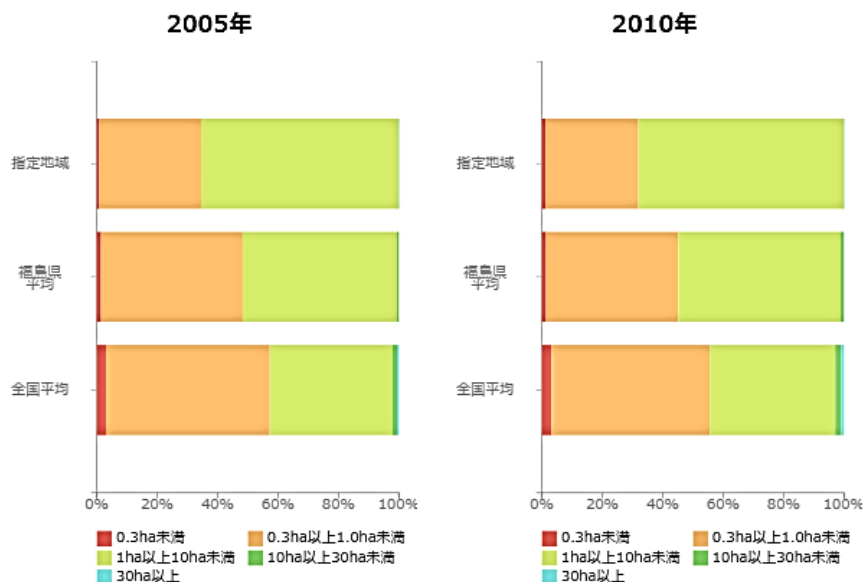


(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 農林水産業マップ/農業者分析より)

経営耕地面積規模別の経営体の割合を平成17年と平成22年で比較すると、5年間で大きな変化はありません。天栄村では「1ha以上10ha未満」が最も多く約7割、「0.3ha以上1.0ha未満」が約3割となり、全国・県の平均と比較して、経営耕地面積が広い経営体の割合が多いことがわかります。

### 経営耕地面積規模別の経営体の割合

指定地域：福島県天栄村

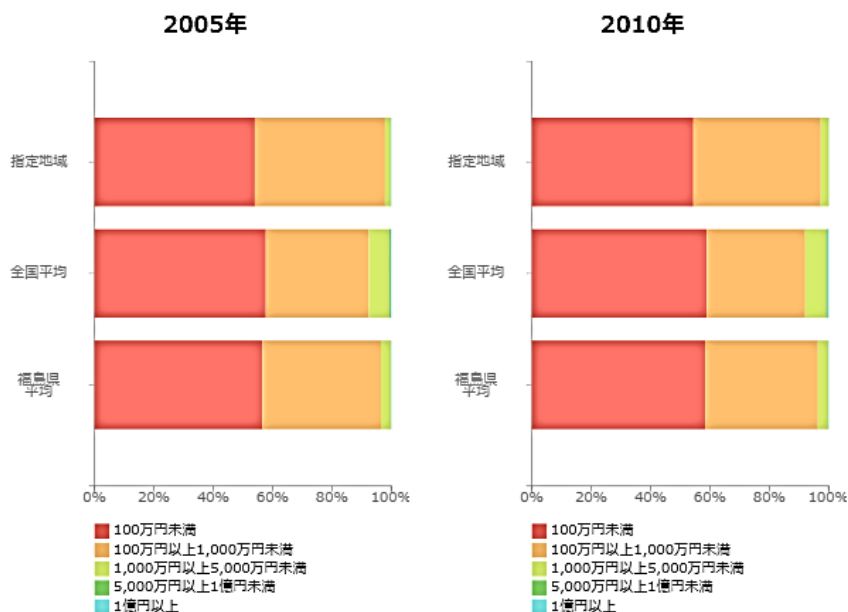


(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 農林水産業マップ/農地分析より)

農産物販売金額帯別の経営体の割合についても、5年間で大きな変化はありません。天栄村では、「100万円未満」が最も多く過半数となり、次いで「100万円以上1,000万円未満」が約4割となっています。

### 農産物販売金額帯別の経営体の割合

指定地域：福島県天栄村

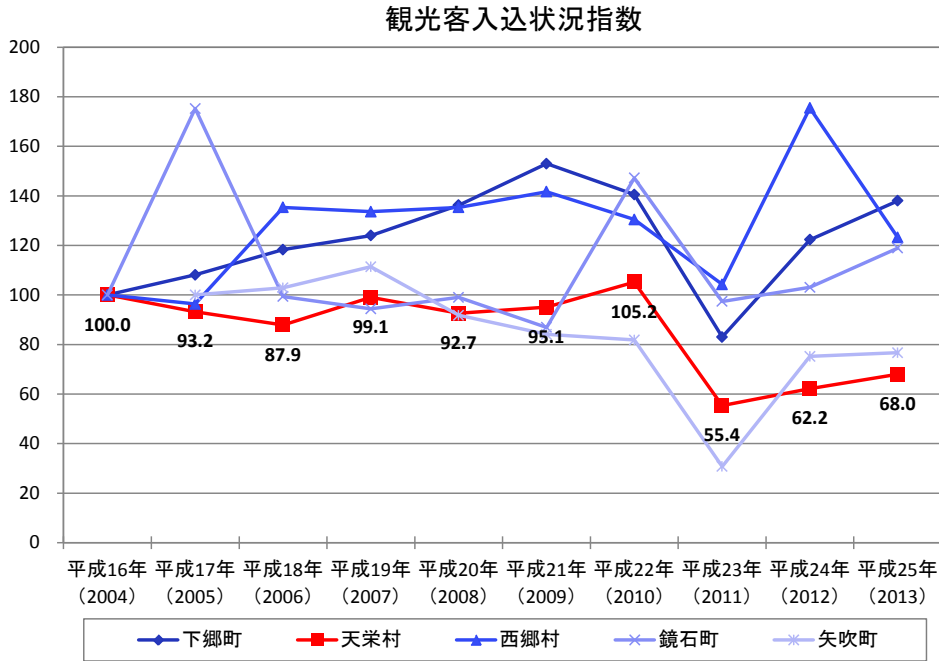


(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 農林水産業マップ/農産物販売金額より)

#### ④ 観光の状況

平成 16 年の観光客入込数を 100 とした場合の変化指数の推移をみると、東日本大震災の発生した平成 23 年には 55.4 まで減少しましたが、その後回復傾向で推移しており、平成 25 年には 68.0 となっています。

周辺町村の推移をみても近年は回復傾向となっており、下郷町、西郷村、鏡石町では平成 16 年を上回る数値となっています。



(福島県統計年鑑)

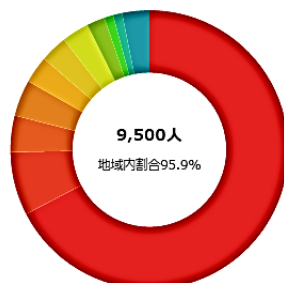
休日に村内に2時間以上滞在した人口の合計は9,900人となっており、そのうち天栄村を除くと3,100人(31.3%)が福島県内から来ています。県外からは400人(4.0%)来ており、内訳は栃木県が最も多く半数となっています。

**滞在人口合計：9,900人（滞在人口率：1.57倍）**

(国勢調査人口：6,291人)

**滞在人口 / 都道府県内**

(市区町村単位)

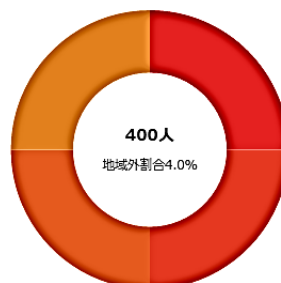


滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 福島県天栄村 6,400人 (67.3%)
- 2位 福島県須賀川市 700人 (7.3%)
- 3位 福島県西郷村 400人 (4.2%)
- 4位 福島県郡山市 400人 (4.2%)
- 5位 福島県矢吹町 300人 (3.1%)
- 6位 福島県鏡石町 300人 (3.1%)
- 7位 福島県白河市 300人 (3.1%)
- 8位 福島県玉川村 200人 (2.1%)
- 9位 福島県福島市 100人 (1.0%)
- 10位 福島県石川町 100人 (1.0%)
- その他 300人 (3.1%)

**滞在人口 / 都道府県外**

(市区町村単位)



滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 茨城県水戸市 100人 (25.0%)
- 2位 埼玉県川口市 100人 (25.0%)
- 3位 栃木県那須塩原市 100人 (25.0%)
- 4位 栃木県宇都宮市 100人 (25.0%)

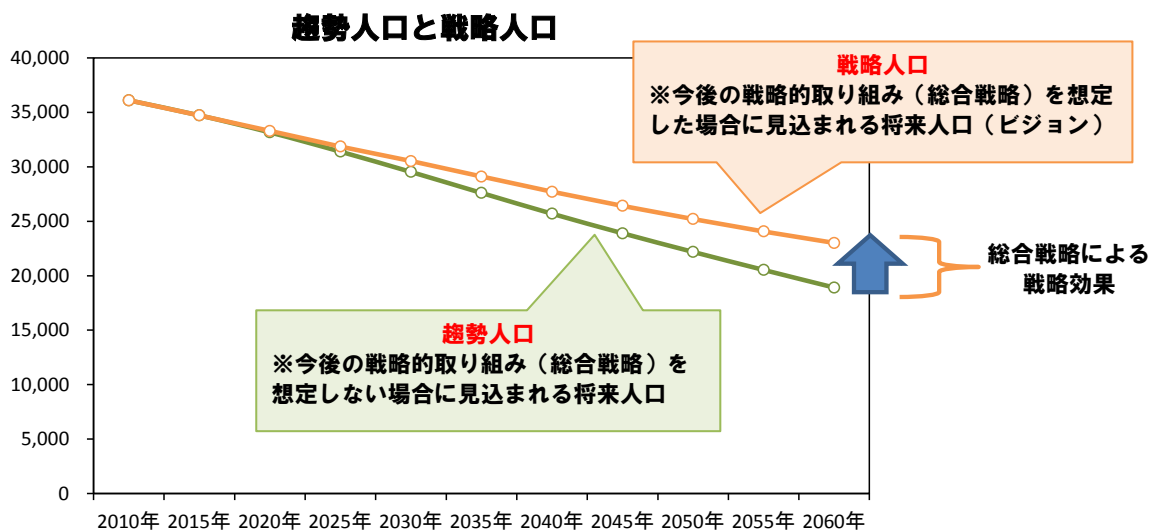
(経済産業省「地域経済分析システム (RESAS) 観光マップ / From-to 分析 (滞在人口) より)

## 2 天栄村の将来人口の推計

### 趨勢人口と戦略人口

人口ビジョンにおいて設定する将来人口は、総合戦略による戦略的な人口政策の取り組みを前提とすることから、「戦略人口」として捉えることができます。この「戦略人口」と、戦略的な人口政策の取り組みを想定しない場合の将来人口（＝「趨勢人口」）との差が、総合戦略による戦略効果といえます。

このことから、戦略人口の推計シミュレーションは、趨勢人口をベースに検討することになります。



#### <現状人口と社人研による推計人口との比較>

一般論としては、国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研という。）による推計人口を趨勢人口として扱うことが考えられます。しかし、社人研による推計人口において、既に実態との乖離が明白な事例も少なくないため、人口シミュレーションを行うに先立ち、社人研推計による 2015 年の推計人口が現状の実態と大きく乖離していないかを確認する必要があります。

基準日(10月1日)	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2020年
福島県の推計人口	6,291	6,128	6,015	5,939	5,830	5,716	

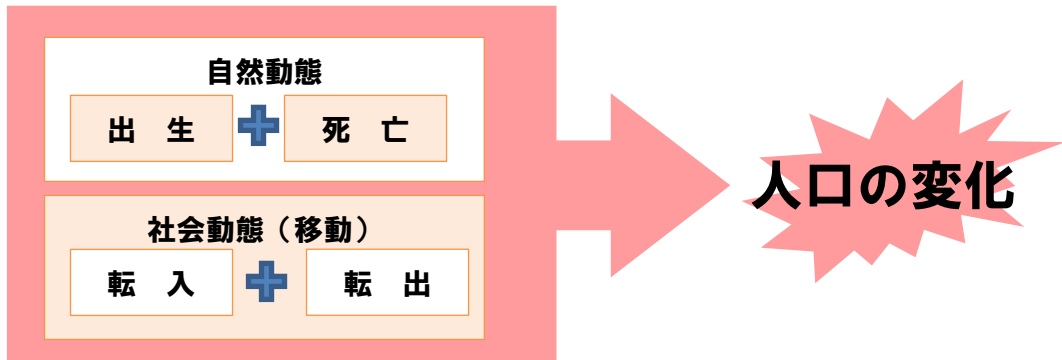
基準日(10月1日)	2010年	2015年	2020年
社人研推計	6,291	6,071	5,813

- 国勢調査ベースの現状人口とみなされる「福島県の推計人口」における天栄村の人口は、2015年10月1日現在で5,716人となっており、社人研推計による2020年の推計人口を既に下回っています。

上記の検証から、社人研推計をベースに実態により即した補正を行い、これを趨勢人口とすることとします。

## (1) 人口推計の基本的な考え方

人口の変動（変化）は、出生・死亡・移動の3つの要素の変化によるものです。



移動（社会動態）は、転入及び転出による現象ですが、人口推計上はこれを区別することなく、転入と転出の差引の結果としての（純）移動数として考えます。したがって、将来の人口推計を行うにあたっては、これらの人口変動の3要素の将来値をいかに設定するかがポイントとなります。

人口推計は、上記の考え方を踏まえ、これに対応し得るコーホート要因法により行うものとします。具体の推計にあたっては、国が作成・配布した人口推計ツールを活用したシミュレーションを行っています。

## (2) 天栄村の趨勢人口の見通し

[社人研推計の将来設定]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	原則として、2010年の全国の子ども女性比（15～49歳女性人口に対する0～4歳人口の比）と各市町村の子ども女性比との比をとり、その比が平成27（2015）年以降2040年まで一定として市町村ごとに仮定。
死亡	原則として、55～59歳→60～64歳以下では、全国と都道府県の2005年→2010年の生残率の比から算出される生残率を都道府県内市町村に対して一律に適用。60～64歳→65～69歳以上では、これに加えて、都道府県と市町村の2000年→2005年の生残率の比から算出される生残率を市町村別に適用。
移動	原則として、2005～2010年の国勢調査（実績）に基づいて算出された純移動率が、2015～2020年までに定率で0.5倍に縮小し、その後はその値を一定と仮定。

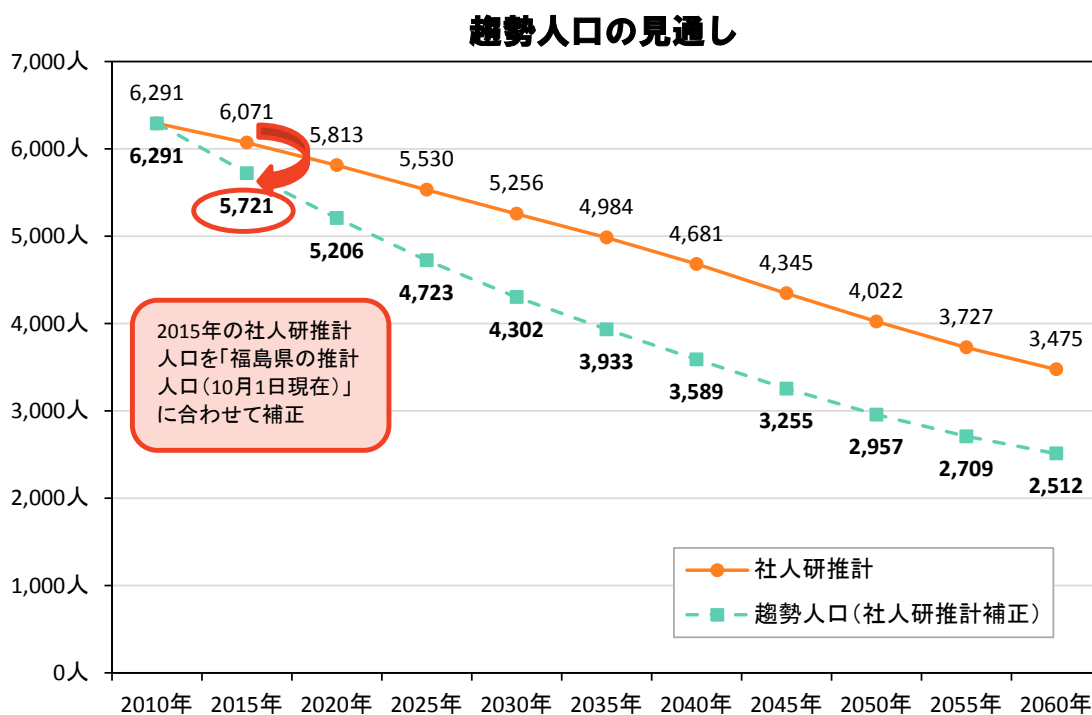


社人研推計をベースに、2015年時点の実態に即した補正を行った推計は以下となります。

**[趨勢人口（社人研推計の補正）の将来設定]**

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	社人研推計と同様。
死亡	社人研推計と同様。
移動	社人研設定の純移動率をベースに、2015年人口が実態に合うように補正。（下方修正）

社人研推計を補正した趨勢人口で見ると、本村の人口は、今後も減少傾向で推移し、2020年に約5,200人、さらに2060年には2,500人程度にまで減少することが見込まれます。



### (3) 将来人口シミュレーション

#### ①シミュレーションの将来設定

趨勢人口を踏まえつつ、いくつかの仮定に基づく将来人口シミュレーションを行います。

(趨勢人口について、2015年の推計人口は実態との乖離補正を行っておりますので、推計シミュレーションは2015年以降を対象に行っております。)

#### [Sim1：趨勢人口をベースに、出生率の上昇を見込んだ推計(国提示の基本シミュレーション)]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇、その後は2.1を維持するものと仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	趨勢人口と同様。

#### [Sim2：Sim1をベースに、移動がゼロを見込んだ推計(国提示の基本シミュレーション)]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇、その後は2.1を維持するものと仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移するものと仮定。 (社人研推計における純移動率設定をベースに、純定住率という新たな視点に置き換えると(P19参照)、性別を問わずすべての年齢で、2020年以降の純定住率が「1」となる設定)

#### [Sim3：福島県人口ビジョン推計パターンに準拠(村の独自推計)]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	県のシミュレーションを踏まえ、合計特殊出生率が、2040年までに天栄村希望出生率「2.14」まで上昇し、その後2.14を維持するものと仮定。
死亡	社人研推計と同様。
移動	2020年に社会動態「±0」と仮定(2020年に純定住率が「1」に上昇)。

[Sim4：出生率の上昇＋純定住率の上昇（村の独自推計）]

3要素	将来設定の基本的な考え方
出生	Sim3と同様。
死亡	社人研推計と同様。
移動	純定住率が2040年までに「1」に上昇するものと仮定。 *総合戦略の施策の効果は、一定の時間をもって徐々に表れるものと想定。

<純移動率と純定住率について>

- 純移動率とは、各コーホート人口（性別・年齢区分別人口）に対する当該コーホートの移動数の比率であり、転入超過の場合はプラス、転出超過の場合はマイナスとなります。
- 推計上、新たに導入する純定住率とは、この純移動率に1.0を加えた数値であり、転入超過の場合は1.0を超え、転出超過の場合は1.0未満（ゼロ以上）、また、転入・転出が均衡して移動ゼロの場合は1.0となります。
- 趨勢人口（社人研補正）における純移動率から算出される本村の純定住率は、2015年仮定値で男女ともに0.34程度となっています。例えば、下表の2015年の男性の数値をみると、純定住率は「0.33」となります。これは、仮に2015年の人口が100人だったと仮定した場合、死亡による人口変動要因を排除しても、転入・転出による移動の結果だけで、33人程度まで減少するような社会動態構造であることを示しています。
- 定住促進とは、この純定住率の上昇を目指す取り組みと解釈することができます。

- ・純定住率の積（総積）が上昇する仮定に基づく純定住率設定  
（Sim4：2040年までに純定住率が「1」に上昇の場合）

各5歳階級のコーホートが5年間に次のコーホートに移行する際の、純定住率。  
（1超なら転入超過、1未満なら転出超過、1なら移動が均衡していることを表す）

純定住率・男

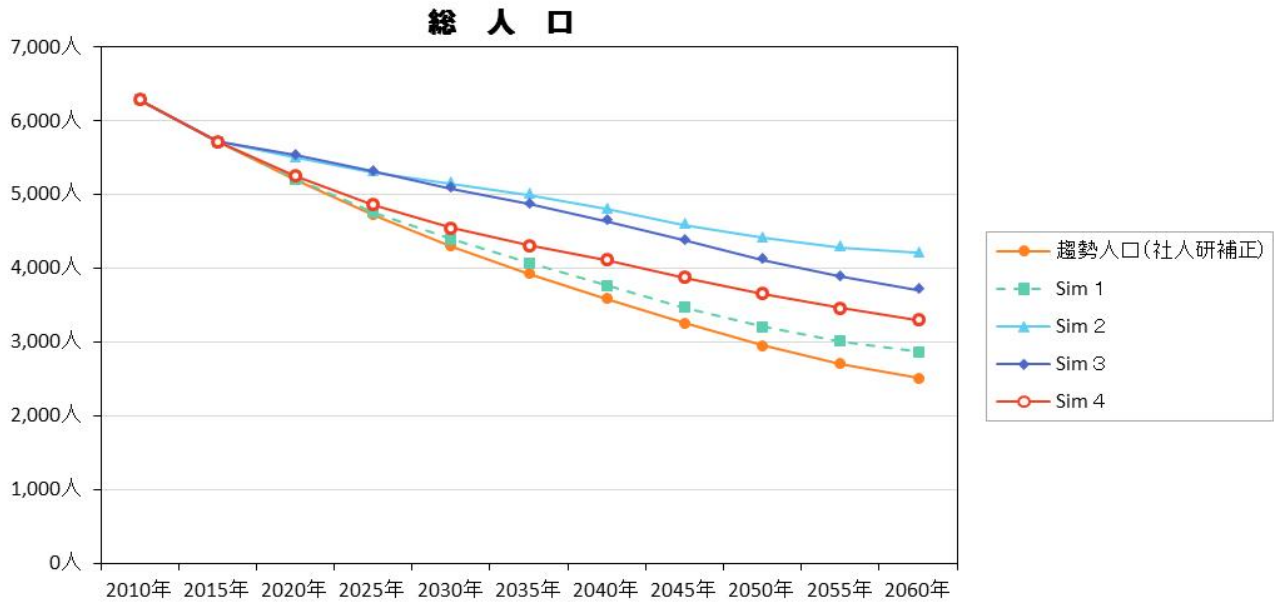
	→2015年	→2020年	→2025年	→2030年	→2035年	→2040年	→2045年	→2050年	→2055年	→2060年
0～4歳→5～9歳	0.99146	1.00277	1.01407	1.02800	1.04048	1.05310	1.05310	1.05310	1.05310	1.05310
5～9歳→10～14歳	0.93800	0.94800	0.95800	0.96800	0.97800	0.98800	0.99632	0.99632	0.99632	0.99632
10～14歳→15～19歳	0.83457	0.84457	0.85457	0.86457	0.87576	0.88639	0.88639	0.88639	0.88639	0.88639
15～19歳→20～24歳	0.85765	0.86800	0.87800	0.88926	0.90005	0.91097	0.91097	0.91097	0.91097	0.91097
20～24歳→25～29歳	1.03908	1.05177	1.06446	1.07738	1.09046	1.10369	1.10369	1.10369	1.10369	1.10369
25～29歳→30～34歳	0.93068	0.94199	0.95379	0.96536	0.97669	0.98855	0.98855	0.98855	0.98855	0.98855
30～34歳→35～39歳	0.97286	0.98466	0.99646	1.00871	1.02095	1.03335	1.03335	1.03335	1.03335	1.03335
35～39歳→40～44歳	0.93105	0.94235	0.95379	0.96536	0.97708	0.98894	0.98894	0.98894	0.98894	0.98894
40～44歳→45～49歳	0.94100	0.95242	0.96398	0.97568	0.98752	0.99951	0.99951	0.99951	0.99951	0.99951
45～49歳→50～54歳	0.93993	0.95133	0.96288	0.97457	0.98639	0.99837	0.99837	0.99837	0.99837	0.99837
50～54歳→55～59歳	0.98268	0.99461	1.00668	1.01890	1.03126	1.04378	1.04378	1.04378	1.04378	1.04378
55～59歳→60～64歳	0.98017	0.99207	1.00411	1.01630	1.02863	1.04112	1.04112	1.04112	1.04112	1.04112
60～64歳→65～69歳	0.94883	0.96034	0.97200	0.98380	0.99574	1.00782	1.00782	1.00782	1.00782	1.00782
65～69歳→70～74歳	0.97352	0.98533	0.99729	1.00940	1.02165	1.03405	1.03405	1.03405	1.03405	1.03405
70～74歳→75～79歳	0.93015	0.94144	0.95287	0.96443	0.97614	0.98798	0.98798	0.98798	0.98798	0.98798
75～79歳→80～84歳	0.91780	0.92894	0.94022	0.95163	0.96318	0.97487	0.97487	0.97487	0.97487	0.97487
80～84歳→85～89歳	0.93691	0.94828	0.95979	0.97144	0.98323	0.99516	0.99516	0.99516	0.99516	0.99516
85歳以上→90歳以上	0.92012	0.93129	0.94259	0.95403	0.96561	0.97733	0.97733	0.97733	0.97733	0.97733
	0.33765	0.419536	0.521287	0.647716	0.804808	1.00000	1.00000	1.00000	1.00000	1.00000

各年齢別の純定住率をすべて掛け合わせた値（生涯純定住率）。  
これが、1超なら移動により人口増加、1未満なら移動により人口減少することになる。

## ②シミュレーション結果

### <総人口>

○2060年の総人口は、趨勢人口が2,512人であるのに対し、“Sim1”では2,872人、“Sim2”では4,206人、村の独自推計の“Sim3”では3,706人、“Sim4”では3,299人となっています。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口(社人研補正)	6,291	5,721	5,206	4,723	4,302	3,933	3,589	3,255	2,957	2,709	2,512
Sim 1	6,291	5,721	5,210	4,762	4,396	4,074	3,769	3,468	3,211	3,013	2,872
Sim 2	6,291	5,721	5,502	5,305	5,149	4,995	4,806	4,594	4,411	4,284	4,206
Sim 3	6,291	5,721	5,533	5,309	5,086	4,870	4,641	4,380	4,119	3,890	3,706
Sim 4	6,291	5,721	5,255	4,860	4,546	4,309	4,112	3,882	3,656	3,459	3,299

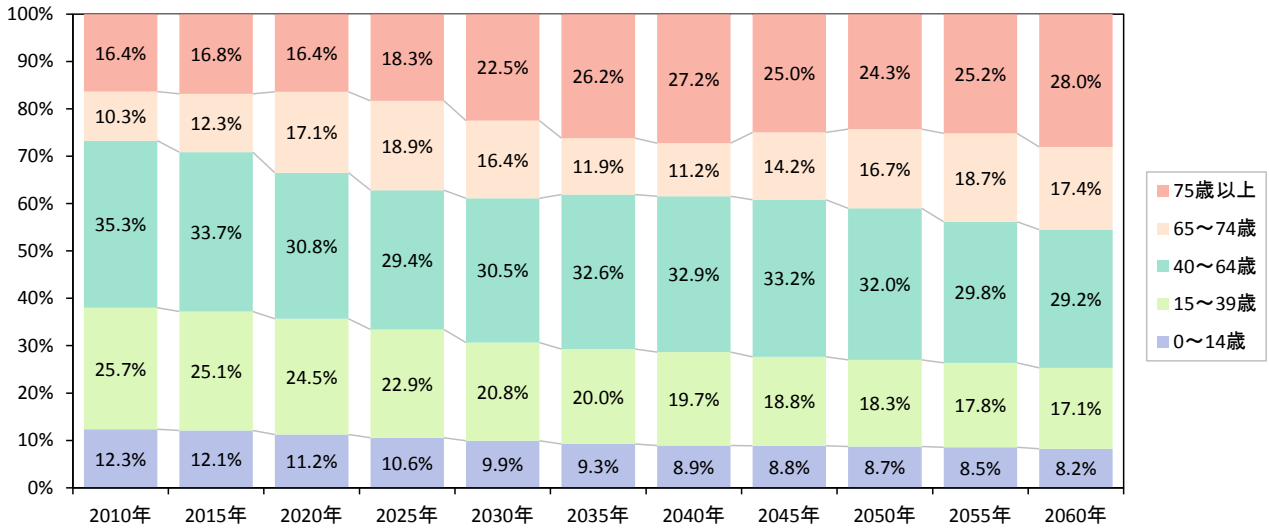
## <年齢構造別総人口>

(単位：人)

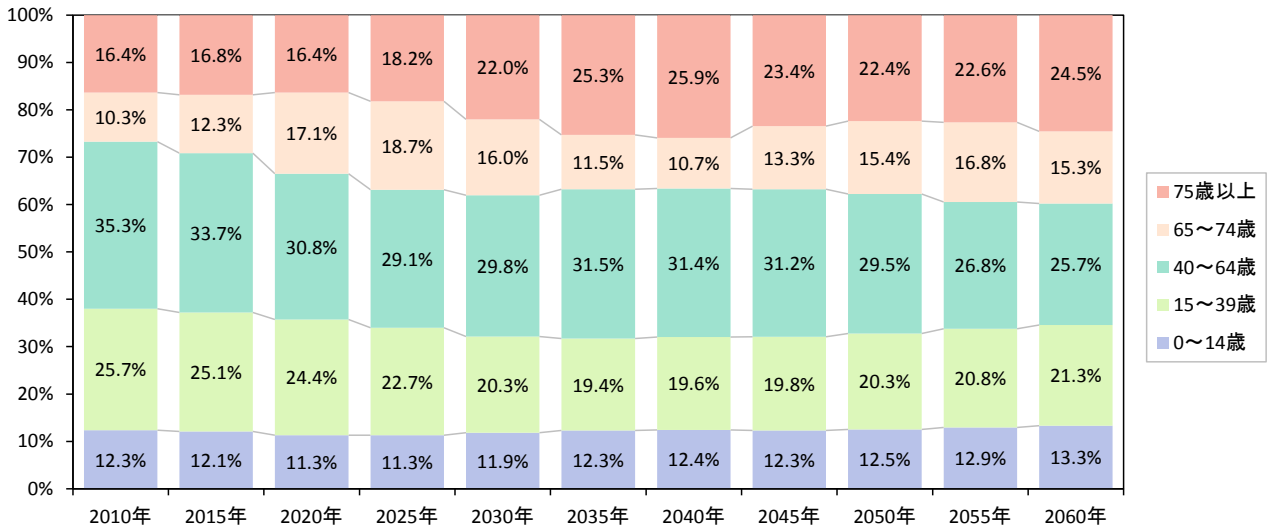
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研補正）	6,291	5,721	5,206	4,723	4,302	3,933	3,589	3,255	2,957	2,709	2,512
0～14歳	777	691	585	499	427	364	321	288	258	231	207
15～39歳	1,616	1,437	1,273	1,080	893	787	707	611	541	483	429
40～64歳	2,219	1,927	1,605	1,388	1,310	1,284	1,182	1,081	946	807	734
65～74歳	651	705	891	891	705	469	402	462	494	506	438
75歳以上	1,029	961	852	865	967	1,029	977	813	718	682	704
Sim 1	6,291	5,721	5,210	4,762	4,396	4,074	3,769	3,468	3,211	3,013	2,872
0～14歳	777	691	589	538	521	501	468	426	402	390	382
15～39歳	1,616	1,437	1,273	1,080	893	791	740	686	651	628	611
40～64歳	2,219	1,927	1,605	1,388	1,310	1,284	1,182	1,081	946	807	737
65～74歳	651	705	891	891	705	469	402	462	494	506	438
75歳以上	1,029	961	852	865	967	1,029	977	813	718	682	704
Sim 2	6,291	5,721	5,502	5,305	5,149	4,995	4,806	4,594	4,411	4,284	4,206
0～14歳	777	691	617	602	653	695	697	663	646	658	683
15～39歳	1,616	1,437	1,384	1,289	1,144	1,102	1,099	1,077	1,081	1,106	1,123
40～64歳	2,219	1,927	1,666	1,489	1,462	1,466	1,392	1,342	1,252	1,114	1,073
65～74歳	651	705	934	964	773	524	461	541	570	587	506
75歳以上	1,029	961	901	961	1,117	1,208	1,157	971	862	819	821
Sim 3	6,291	5,721	5,533	5,309	5,086	4,870	4,641	4,380	4,119	3,890	3,706
0～14歳	777	691	635	603	586	561	551	542	527	504	486
15～39歳	1,616	1,437	1,343	1,194	1,027	954	915	852	815	800	773
40～64歳	2,219	1,927	1,693	1,536	1,510	1,533	1,452	1,356	1,206	1,036	963
65～74歳	651	705	943	990	815	560	493	585	636	654	563
75歳以上	1,029	961	919	986	1,148	1,262	1,230	1,045	935	896	921
Sim 4	6,291	5,721	5,255	4,860	4,546	4,309	4,112	3,882	3,656	3,459	3,299
0～14歳	777	691	606	555	525	498	490	482	468	450	438
15～39歳	1,616	1,437	1,280	1,100	924	850	813	755	723	711	687
40～64歳	2,219	1,927	1,614	1,412	1,355	1,361	1,289	1,208	1,076	923	858
65～74歳	651	705	897	906	730	496	438	515	561	583	503
75歳以上	1,029	961	858	887	1,012	1,104	1,082	922	828	792	813

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研補正）	6,291	5,721	5,206	4,723	4,302	3,933	3,589	3,255	2,957	2,709	2,512
0～14歳	12.3%	12.1%	11.2%	10.6%	9.9%	9.3%	8.9%	8.8%	8.7%	8.5%	8.2%
15～39歳	25.7%	25.1%	24.5%	22.9%	20.8%	20.0%	19.7%	18.8%	18.3%	17.8%	17.1%
40～64歳	35.3%	33.7%	30.8%	29.4%	30.5%	32.6%	32.9%	33.2%	32.0%	29.8%	29.2%
65～74歳	10.3%	12.3%	17.1%	18.9%	16.4%	11.9%	11.2%	14.2%	16.7%	18.7%	17.4%
75歳以上	16.4%	16.8%	16.4%	18.3%	22.5%	26.2%	27.2%	25.0%	24.3%	25.2%	28.0%
Sim 1	6,291	5,721	5,210	4,762	4,396	4,074	3,769	3,468	3,211	3,013	2,872
0～14歳	12.3%	12.1%	11.3%	11.3%	11.9%	12.3%	12.4%	12.3%	12.5%	12.9%	13.3%
15～39歳	25.7%	25.1%	24.4%	22.7%	20.3%	19.4%	19.6%	19.8%	20.3%	20.8%	21.3%
40～64歳	35.3%	33.7%	30.8%	29.1%	29.8%	31.5%	31.4%	31.2%	29.5%	26.8%	25.7%
65～74歳	10.3%	12.3%	17.1%	18.7%	16.0%	11.5%	10.7%	13.3%	15.4%	16.8%	15.3%
75歳以上	16.4%	16.8%	16.4%	18.2%	22.0%	25.3%	25.9%	23.4%	22.4%	22.6%	24.5%
Sim 2	6,291	5,721	5,502	5,305	5,149	4,995	4,806	4,594	4,411	4,284	4,206
0～14歳	12.3%	12.1%	11.2%	11.3%	12.7%	13.9%	14.5%	14.4%	14.6%	15.4%	16.2%
15～39歳	25.7%	25.1%	25.2%	24.3%	22.2%	22.1%	22.9%	23.4%	24.5%	25.8%	26.7%
40～64歳	35.3%	33.7%	30.3%	28.1%	28.4%	29.3%	29.0%	29.2%	28.4%	26.0%	25.5%
65～74歳	10.3%	12.3%	17.0%	18.2%	15.0%	10.5%	9.6%	11.8%	12.9%	13.7%	12.0%
75歳以上	16.4%	16.8%	16.4%	18.1%	21.7%	24.2%	24.1%	21.1%	19.5%	19.1%	19.5%
Sim 3	6,291	5,721	5,533	5,309	5,086	4,870	4,641	4,380	4,119	3,890	3,706
0～14歳	12.3%	12.1%	11.5%	11.4%	11.5%	11.5%	11.9%	12.4%	12.8%	13.0%	13.1%
15～39歳	25.7%	25.1%	24.3%	22.5%	20.2%	19.6%	19.7%	19.5%	19.8%	20.6%	20.9%
40～64歳	35.3%	33.7%	30.6%	28.9%	29.7%	31.5%	31.3%	31.0%	29.3%	26.6%	26.0%
65～74歳	10.3%	12.3%	17.0%	18.6%	16.0%	11.5%	10.6%	13.4%	15.4%	16.8%	15.2%
75歳以上	16.4%	16.8%	16.6%	18.6%	22.6%	25.9%	26.5%	23.9%	22.7%	23.0%	24.9%
Sim 4	6,291	5,721	5,255	4,860	4,546	4,309	4,112	3,882	3,656	3,459	3,299
0～14歳	12.3%	12.1%	11.5%	11.4%	11.5%	11.6%	11.9%	12.4%	12.8%	13.0%	13.3%
15～39歳	25.7%	25.1%	24.4%	22.6%	20.3%	19.7%	19.8%	19.4%	19.8%	20.6%	20.8%
40～64歳	35.3%	33.7%	30.7%	29.1%	29.8%	31.6%	31.3%	31.1%	29.4%	26.7%	26.0%
65～74歳	10.3%	12.3%	17.1%	18.6%	16.1%	11.5%	10.7%	13.3%	15.3%	16.9%	15.2%
75歳以上	16.4%	16.8%	16.3%	18.3%	22.3%	25.6%	26.3%	23.8%	22.6%	22.9%	24.6%

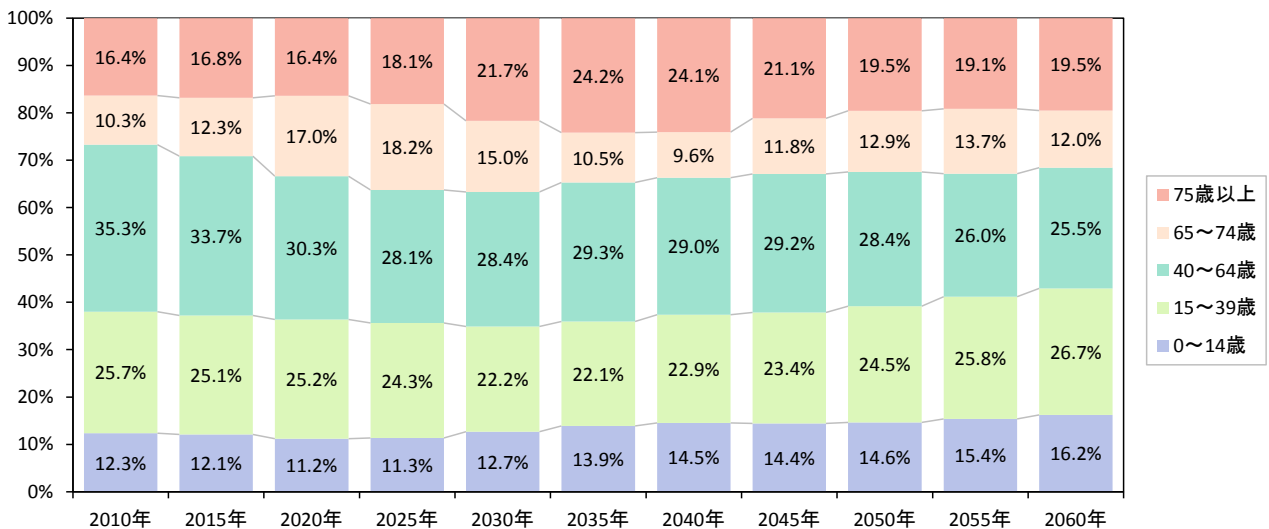
### 趨勢人口（社人研補正）：年齡構成比



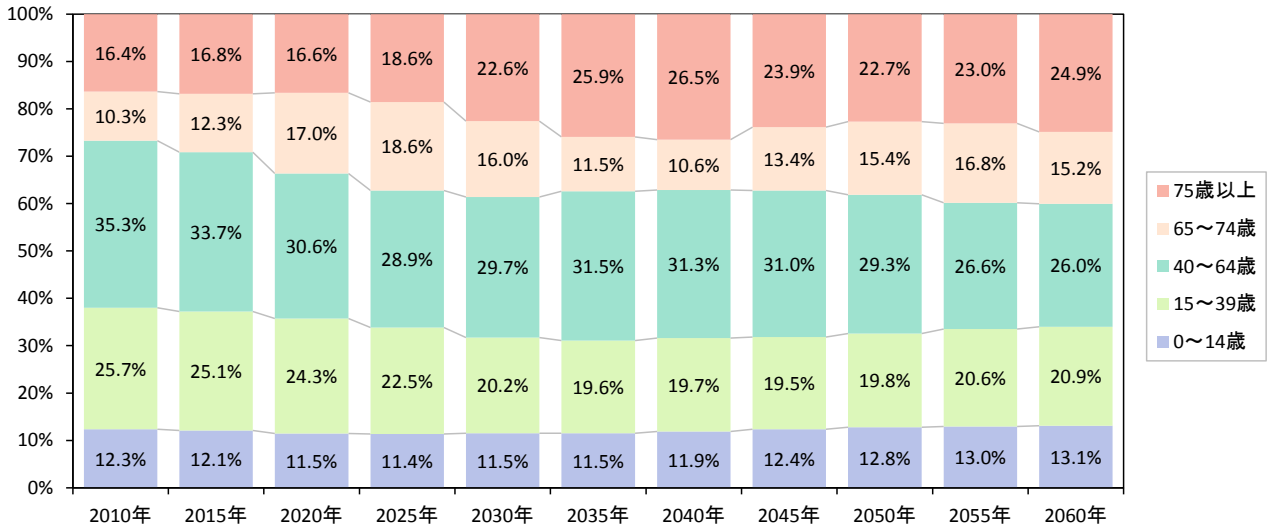
### Sim1：年齡構成比



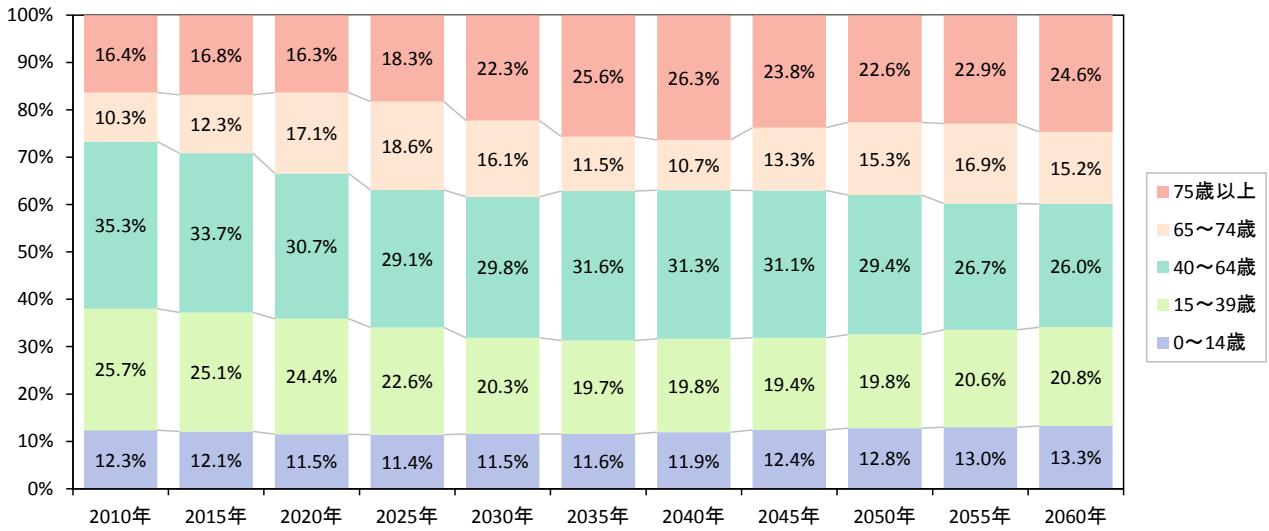
### Sim2：年齡構成比



**Sim3：年齡構成比**



**Sim4：年齡構成比**





## <出生数>

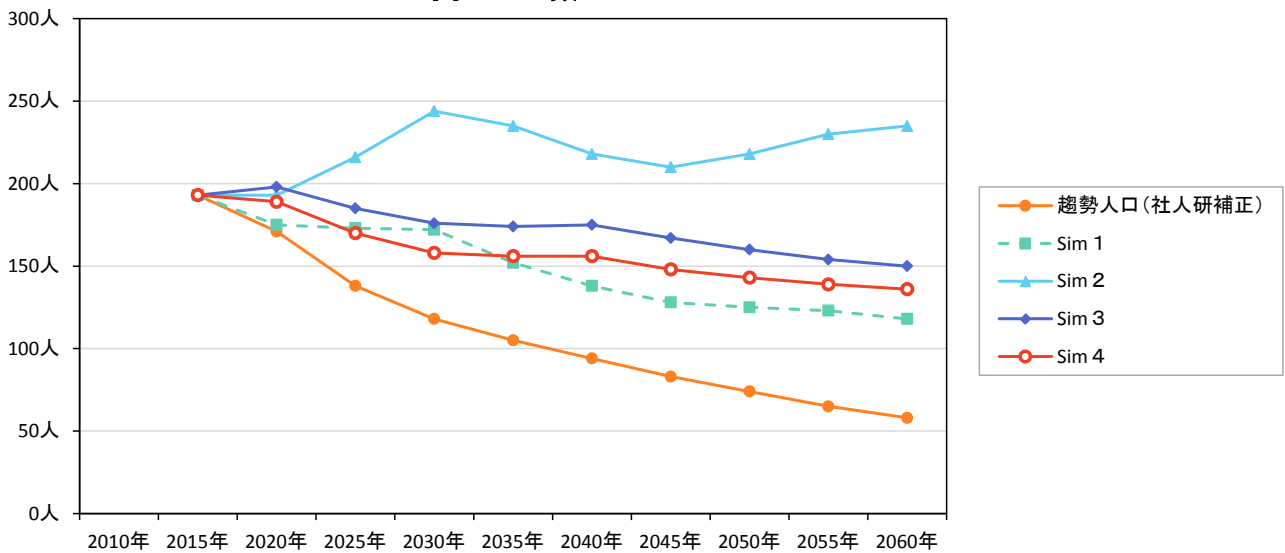
○出生については、次のような合計特殊出生率の仮定に基づいています。

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研補正）	1.49	1.49	1.46	1.44	1.44	1.45	1.45	1.45	1.45	1.45	1.45
Sim 1	1.49	1.49	1.50	1.80	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
Sim 2	1.49	1.49	1.50	1.80	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10	2.10
Sim 3	1.49	1.49	1.61	1.73	1.86	2.01	2.14	2.14	2.14	2.14	2.14
Sim 4	1.49	1.49	1.61	1.73	1.86	2.01	2.14	2.14	2.14	2.14	2.14

○出生数は、合計特殊出生率と15～49歳の女性人口との関係で変動します。

○合計特殊出生率が最も高い設定となる“Sim 3” “Sim 4”においても、“Sim 2”に比べて出生数が少なくなるのはそのためです。

## 出生数



(単位：人)

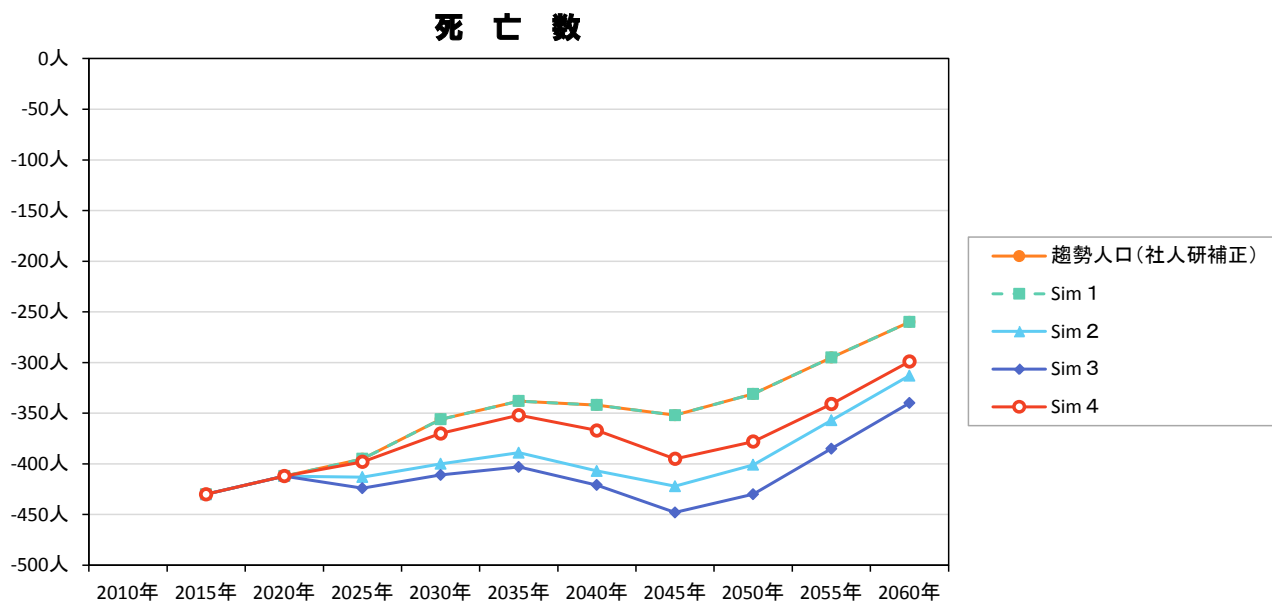
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研補正）		193	171	138	118	105	94	83	74	65	58
Sim 1		193	175	173	172	152	138	128	125	123	118
Sim 2		193	193	216	244	235	218	210	218	230	235
Sim 3		193	198	185	176	174	175	167	160	154	150
Sim 4		193	189	170	158	156	156	148	143	139	136

\*数値は5年間の累計

## <死亡数>

○死亡数については、趨勢人口や各シミュレーションにおいて、いずれも社人研推計の設定を採用しています。これは、自治体単位の取り組み成果として、死亡数を推計する際に用いる生残率の変動を期待することは難しいと思われるためです。

○したがって、趨勢人口や各シミュレーションにおける死亡数の差異は、出生数や移動数の違いに基づくものです。



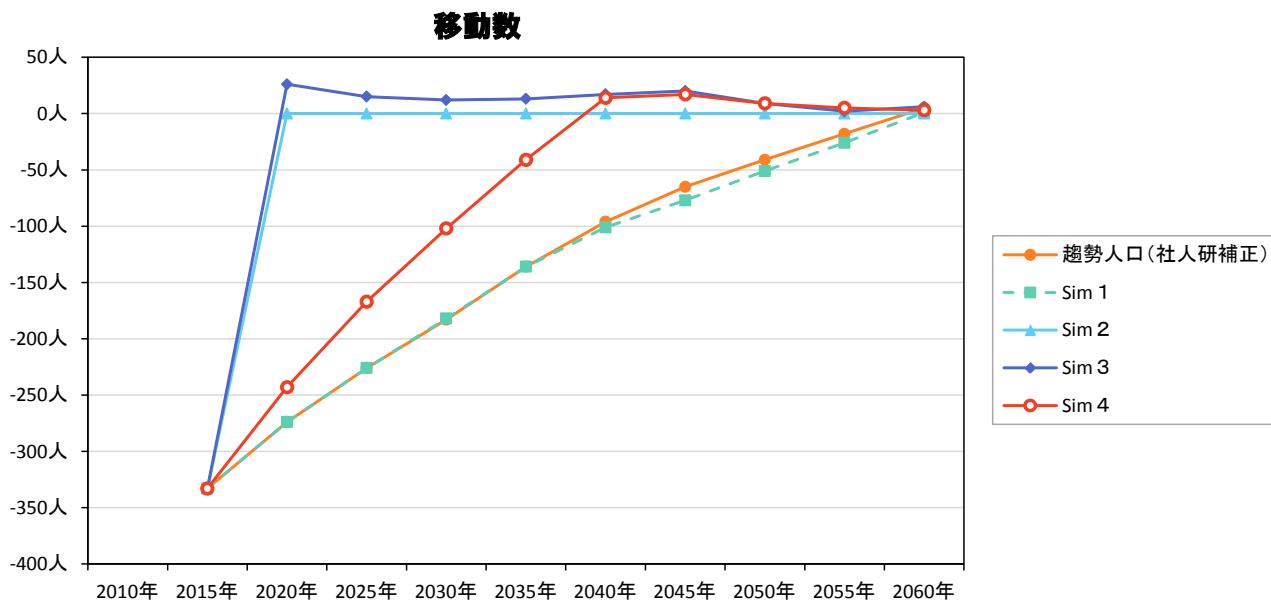
(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口 (社人研補正)		-430	-412	-395	-356	-338	-342	-352	-331	-295	-260
Sim 1		-430	-412	-395	-356	-338	-342	-352	-331	-295	-260
Sim 2		-430	-412	-413	-400	-389	-407	-422	-401	-357	-313
Sim 3		-430	-412	-424	-411	-403	-421	-448	-430	-385	-340
Sim 4		-430	-412	-398	-370	-352	-367	-395	-378	-341	-299

\* 数値は5年間の累計

## <移動数>

- いずれの推計においても転出超過の縮小（純定住率の上昇）が想定されています。
- “Sim 2”では、移動ゼロを想定しています。
- “Sim 4”では、純移動率に基づく純定住率という概念を用いた上で、この純定住率の緩やかな上昇を想定しているため、転出超過数が抑制され、2040年には転入超過へ転換することが想定されます。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口 (社人研補正)		-333	-274	-226	-183	-136	-96	-65	-41	-18	5
Sim 1		-333	-274	-226	-182	-136	-101	-77	-51	-26	1
Sim 2		-333	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Sim 3		-333	26	15	12	13	17	20	9	2	6
Sim 4		-333	-243	-167	-102	-41	14	17	9	5	3

\*数値は5年間の累計

### 3 天栄村における人口動向・構造の特性と課題

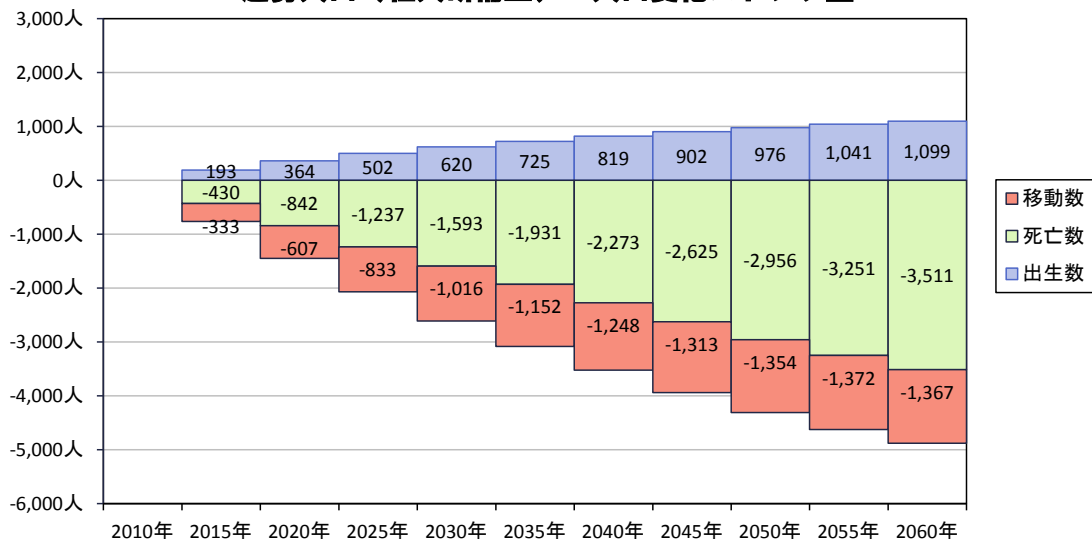
#### [特 性]

- 本村の近年の総人口は、1995年の7,153人以降は減少傾向で推移しており、2010年には6,291人となっています。
- 1980年以降の人口構成比をみると、年少人口（0～14歳）比率は20.5%から12.4%に減少したのに対し、高齢化率は13.4%から26.7%に増加しており、本村においても少子高齢化が進行しています。
- 出生数については、年間40人前後で推移していますが、2014年の出生数は30人となり、減少の傾向もみられます。
- 合計特殊出生率は、年次による増減を繰り返していますが、2014年には0.98となり、近年では最も低くなっています。
- 死亡数については、年間90人前後で推移しており、出生数と合わせた自然動態としては年間で-50人前後ですが、このマイナス幅は拡大傾向にあります。
- 転入については年間150人程度、転出については増減を繰り返していますが、これらを合わせた社会動態としては一貫してマイナスの範囲で推移しています。
- 転入・転出といった移動の特に多い年代は、男女ともに20・30代となり、進学・就職や結婚等のライフイベントに伴う移動と考えられます。
- 平成17～平成22年の5年間での転入元・転出先については、須賀川市が最も多く、転入では18.5%、転出では23.2%となっています。
- 通勤・通学の状況については、15歳以上の就業者・通学者3,287人のうち、村内への通勤・通学者が1,475人で44.9%となります。
- 村外への通勤・通学者1,811人のうち、通勤・通学先として最も多いのは須賀川市で652人と全体の36.0%を占めています。
- 逆に、本村への通勤・通学者1,014人についても、須賀川市からの通勤・通学者が387人と最も多く38.2%を占めています。
- また、村内従業者の産業別の従業者数をみると、製造業が最も多く634人となっています。

## [課題]

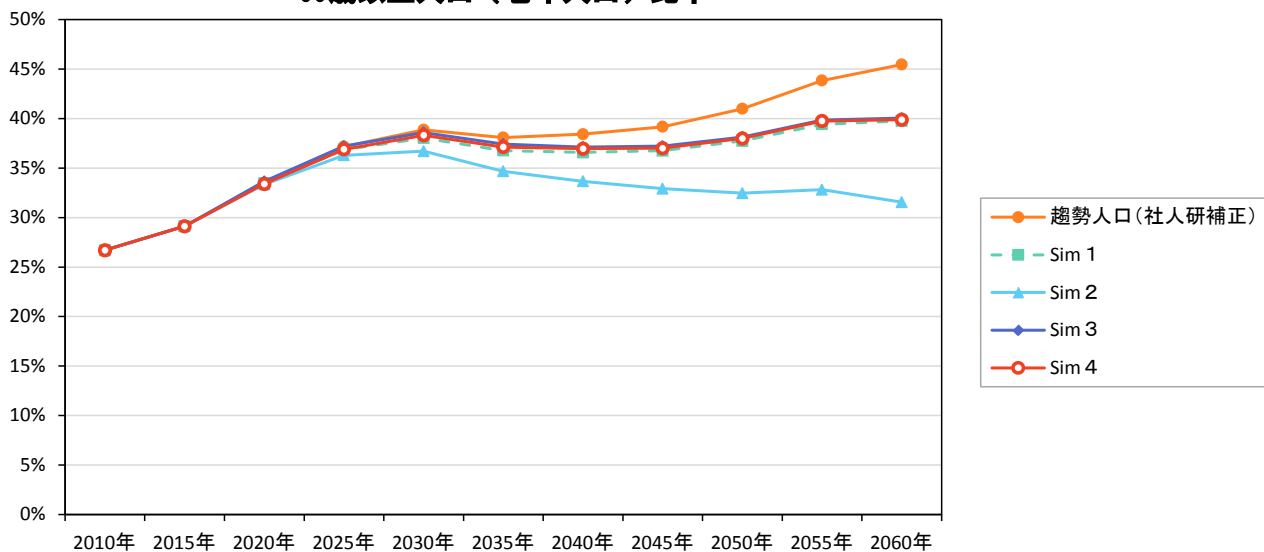
- 今後の趨勢人口として、2010年の6,291人から2060年には2,512人程度へと減少することが見込まれますが、その減少の多くは死亡によるものです。
- 下図に示すとおり、2010年から2060年までの50年間で計3,500人程度の死亡が見込まれています。

趨勢人口（社人研補正）：人口変化ストック量

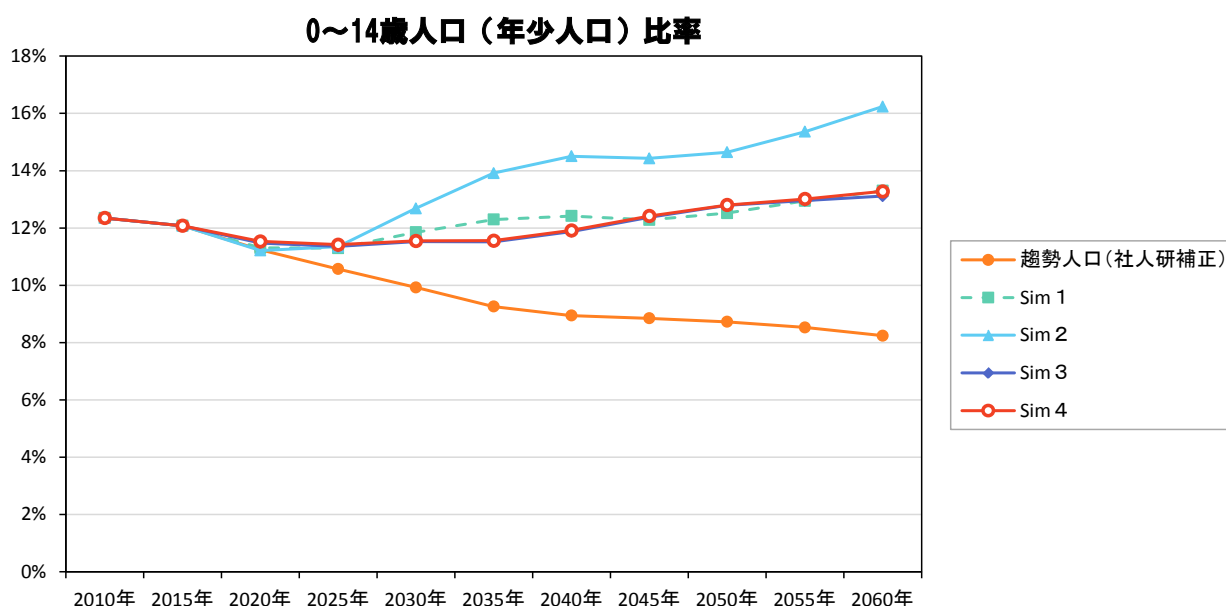


- 高齢化した人口構造を背景に、死亡数を大きく減少させることは困難と考えられ、したがって、今後の人口政策としては、出生数の増加並びに転入促進・転出抑制が重要になってきます。
- 趨勢人口としての高齢者人口は2030年に2,600人台でピークを迎えることが想定されるものの、総人口の減少に伴い、高齢化率（老年人口比率）は今後も上昇していくことが見込まれています。

65歳以上人口（老年人口）比率



- 出生動向については、趨勢人口で仮定された合計特殊出生率の水準（2035年以降 1.45）を上回るような少子化対策を図る必要があり、そのためには、経済的支援、ワークライフバランスの進展等を含めた子育て環境の向上を図るとともに、併せて、若い世代の未婚化・晩婚化を抑制するための婚活支援の取り組みが極めて重要になってくるものと考えられます。
- 前記の高齢化率の上昇を抑制していくためにも、出生数の増加や若い世代の人口増加を図るための取り組みは重要になります。
- Sim 1～4で推計したように、合計特殊出生率上昇の効果として、趨勢人口では2060年の年少人口比率が 8.2%にまで減少するのに対し、Sim 1～4では 13%を上回る水準にまで上昇することになります。



- こうした年少人口比率の増加の効果もあって、趨勢人口では2060年の高齢化率が 45.5%であるのに対し、Sim 1～4では 40%未満の水準に抑制することが可能です。
- 都市における人口規模の大幅な縮小は、地域における消費活動を減退させるだけでなく、労働に従事する人口の減少の結果として地域における経済規模が縮小し、日常生活における様々なサービス・利便性が低下していくとともに、こうした都市機能・生活機能の低下により、さらに人口の転出を促すという悪循環に入り込むことが危惧されます。
- また、人口の問題は規模だけの問題ではなく、人口の年齢構造の問題でもあり、このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等をはじめとするサービス需要の問題だけではなく、長期的に安定的な人口規模を維持するという観点からも少子高齢化を抑制し、人口構造を健全化する必要があります。

### Ⅲ 人口の将来展望

## 1 将来展望に必要な調査・分析

### (1) アンケートの実施概要

○天栄村における人口の将来展望の基礎資料とするため、住民へのアンケート調査を実施いたしました。調査の対象者や回収数等については、下記のとおりです。

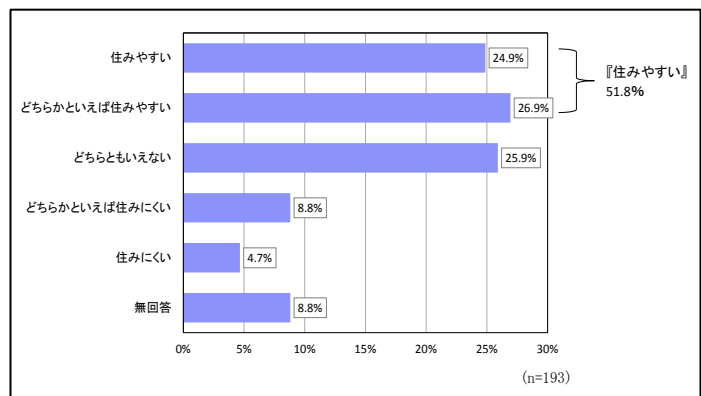
項目	内容
調査名	地方創生に関する村民アンケート
調査対象	村内在住の15歳以上65歳未満の方を無作為抽出
調査実施時期	平成27年10月
回収率	38.6% (500票配布/有効回収数193票)

### (2) アンケートの結果概要

#### 住みやすさについて

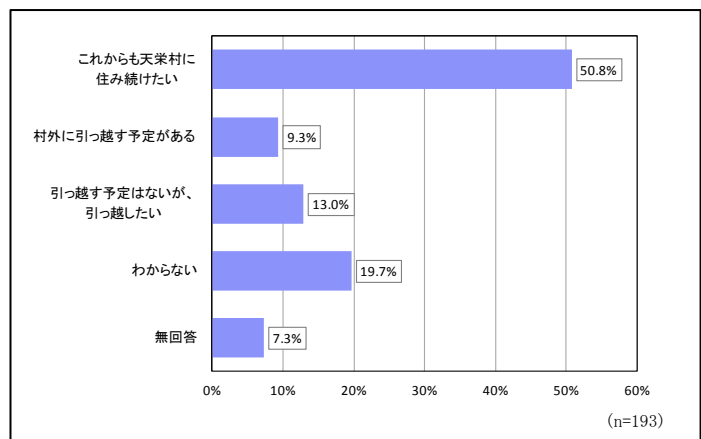
##### ①住みやすさについて

「住みやすい」(24.9%)と「どちらかといえば住みやすい」(26.9%)を合わせた『住みやすい』が51.8%と過半数を占めています。



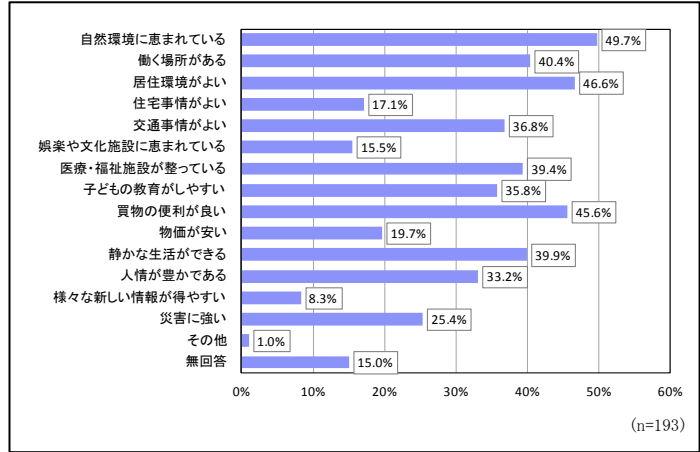
##### ②定住意向について

「これからも天栄村に住み続けたい」が、過半数となっています。



### ③住みよさとは

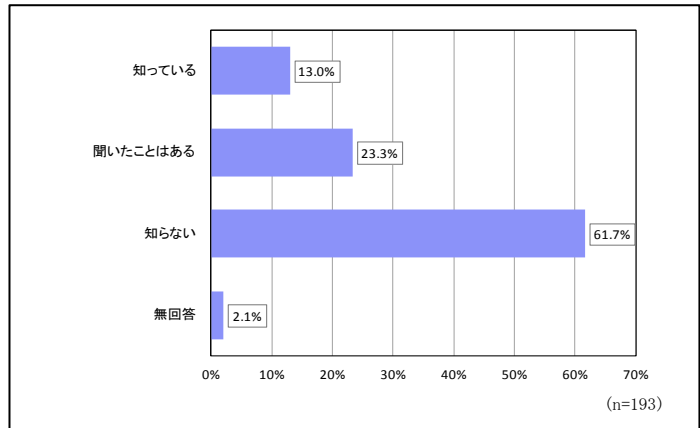
「自然環境に恵まれている」が49.7%と最も多く、次いで「居住環境がよい」が46.6%、「買物の便利がよい」が45.6%となっています。



## 人口減少社会について

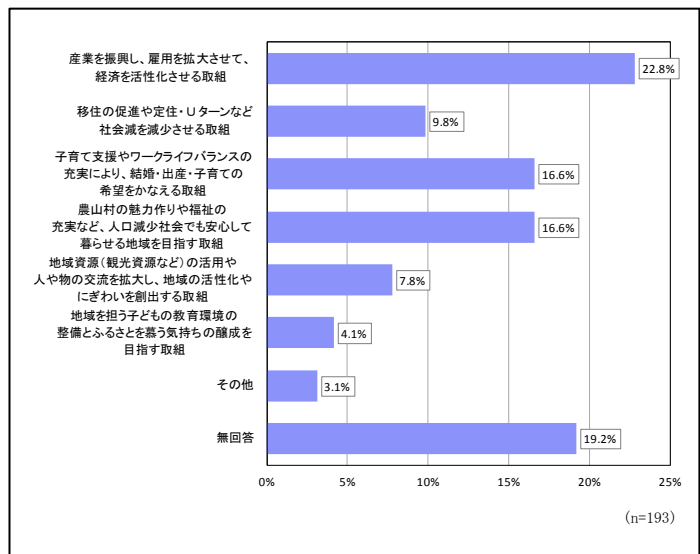
### ④人口推計の認知度

「知らない」が61.7%で最も多くなっています。



### ⑤人口減少に対して村が取り組むべきこと

「産業を振興し、雇用を拡大させて、経済を活性化させる取組」が22.8%と最も多く、次いで「子育て支援やワーク・ライフ・バランスの充実により、結婚・出産・子育ての希望をかなえる取組」「農山村の魅力作りや福祉の充実など、人口減少社会でも安心して暮らせる地域を目指す取組」がともに16.6%となっています。

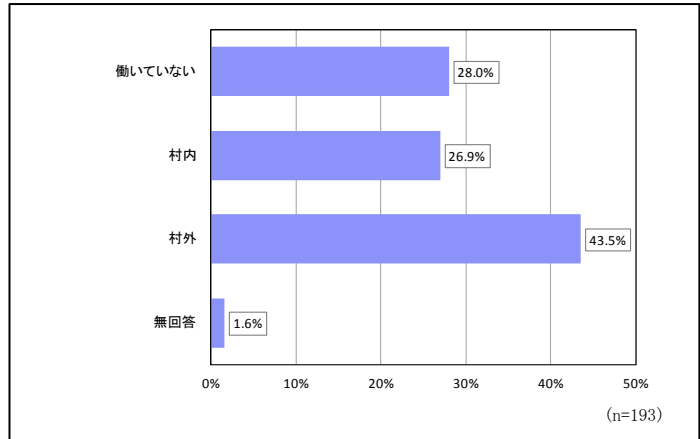




## 働くことについて

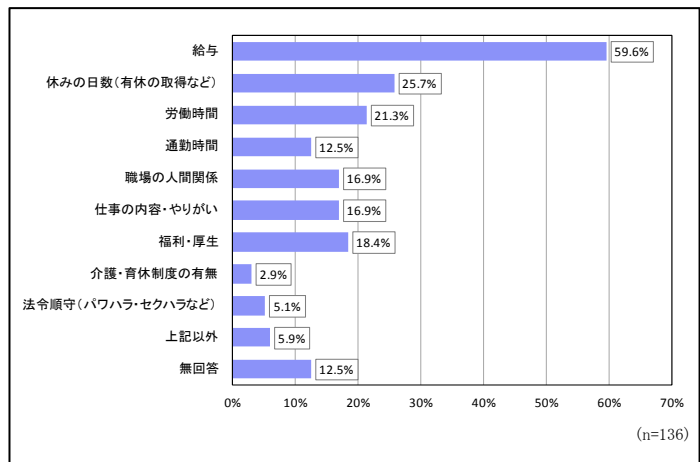
### ⑥働き場所

「村外」43.5%、「村内」26.9%となっています。



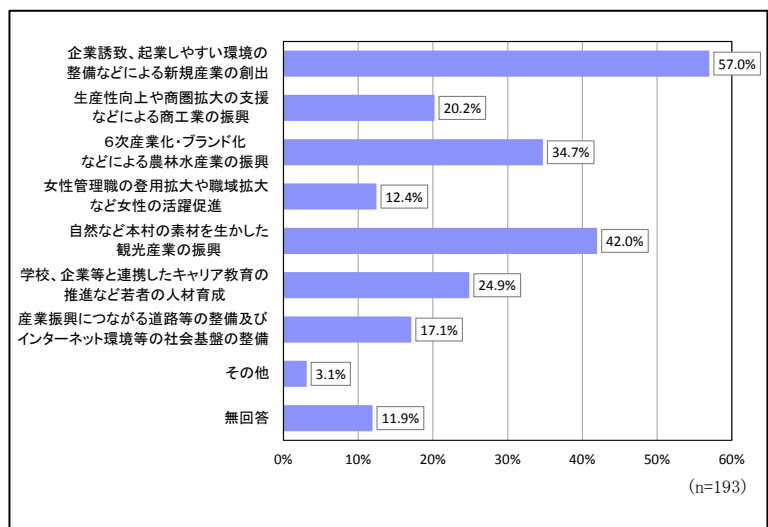
### ⑦職場環境で改善してほしいこと

「給与」が59.6%と最も多く、次いで「休みの日数（有休の取得など）」が25.7%、「労働時間」が21.3%となっています。



### ⑧地域経済の活性化のため力を入れるべき取り組み

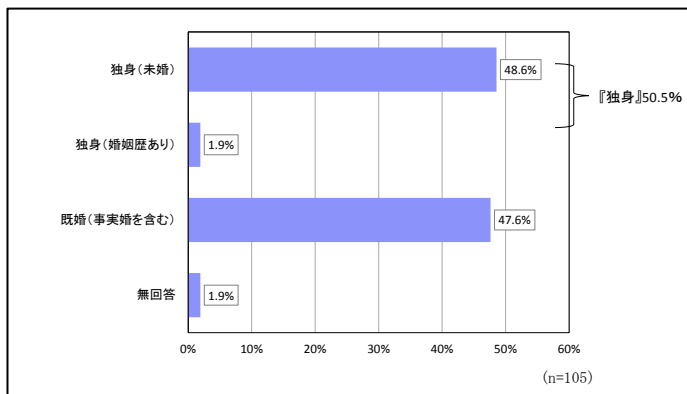
「企業誘致、起業しやすい環境の整備などによる新規産業の創出」が過半数となっています。



## 結婚について

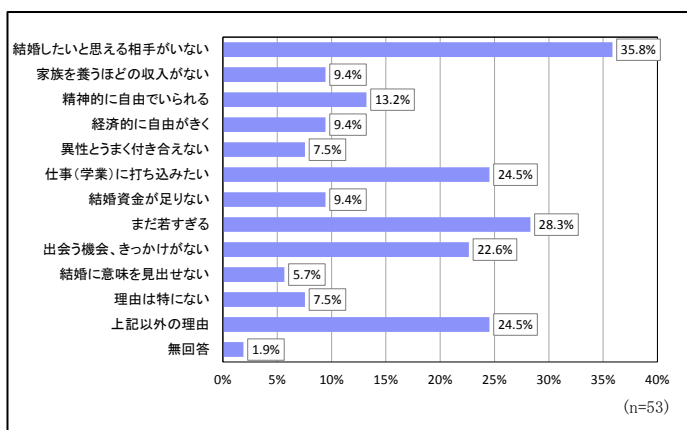
### ⑨結婚の有無

「独身（未婚）」（48.6%）と「独身（婚姻歴あり）」（1.9%）を合わせた『独身』が50.5%で、「既婚（事実婚を含む）」が47.6%となっています。



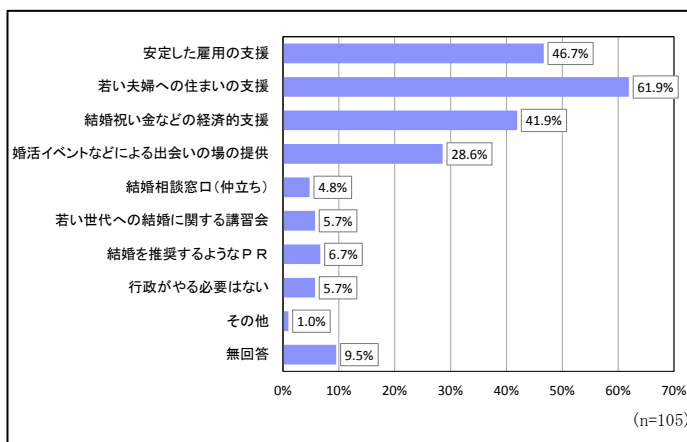
### ⑩独身の理由

「結婚したいと思える相手がない」が35.8%と最も多く、次いで「まだ若すぎる」が28.3%、「仕事（学業）に打ち込みたい」「上記以外の理由」が24.5%となっています。



### ⑪村が取り組むべき結婚支援事業

「若い夫婦への住まいの支援」が61.9%と最も多く、次いで「安定した雇用の支援」が46.7%、「結婚祝い金などの経済的支援」が41.9%となっています。

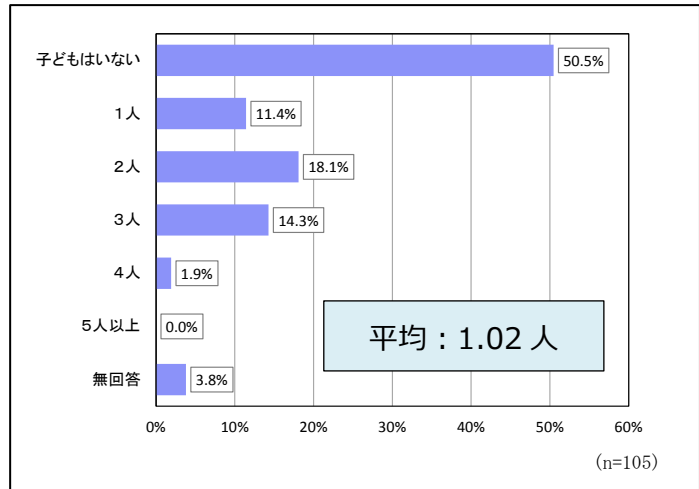


## 出産について

### ⑫現在の子ども数

「子どもはいない」が50.5%と最も多く、次いで「2人」が18.1%、「3人」が14.3%となっています。

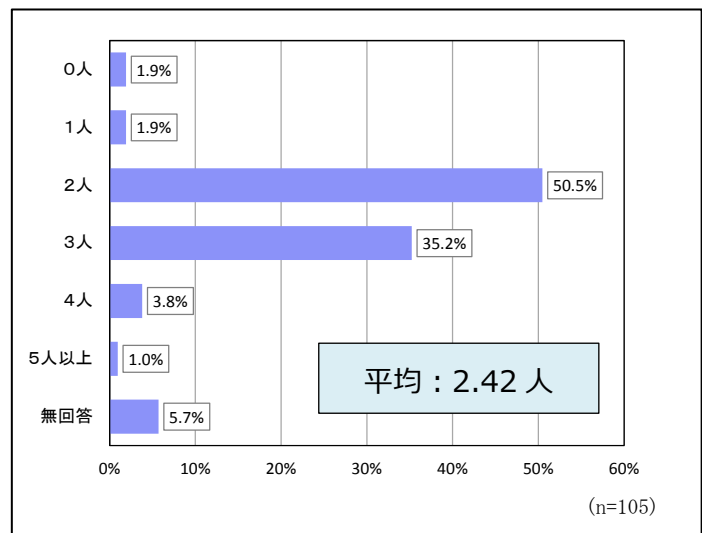
「無回答」を除く回答者の現在の平均子ども数は「1.02人」となっています。



### ⑬理想の子ども数

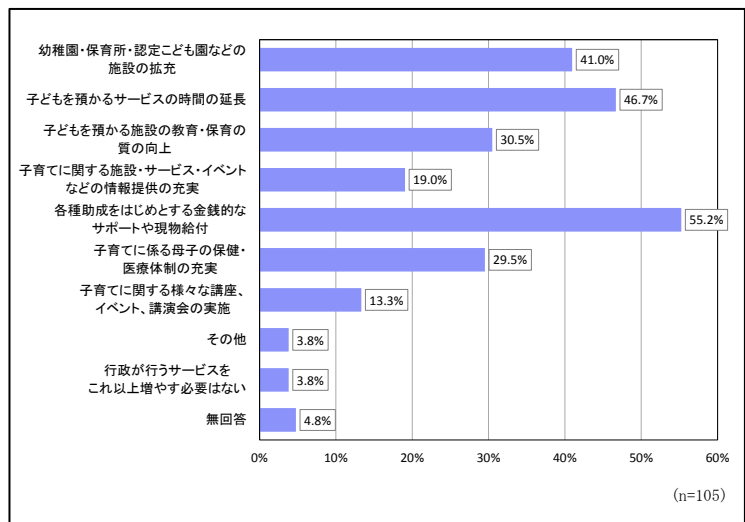
「2人」が50.5%と最も多く、次いで「3人」が35.2%、「1人」が1.9%となっています。

「無回答」を除く回答者の理想とする平均子ども数は「2.42人」となっています。



### ⑭出産・育児に関するサービスとして力を入れるべきこと

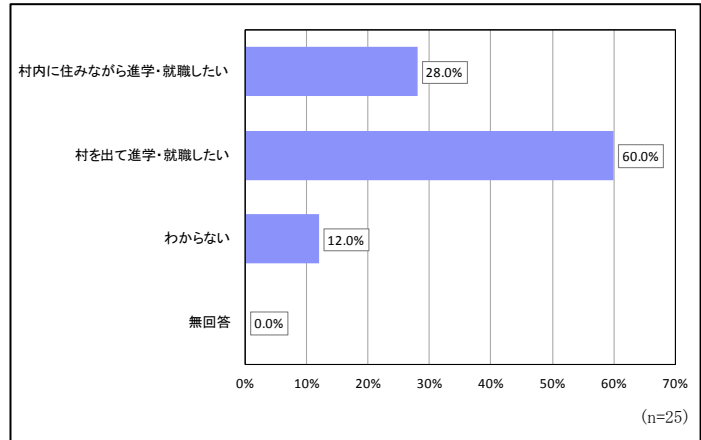
「各種助成をはじめとする金銭的なサポートや現物給付」が55.2%と最も多く、次いで「子どもを預かるサービスの時間の延長」が46.7%、「幼稚園・保育所・認定子ども園などの施設の拡充」が41.0%となっています。



## 今後の進路について（学生限定）

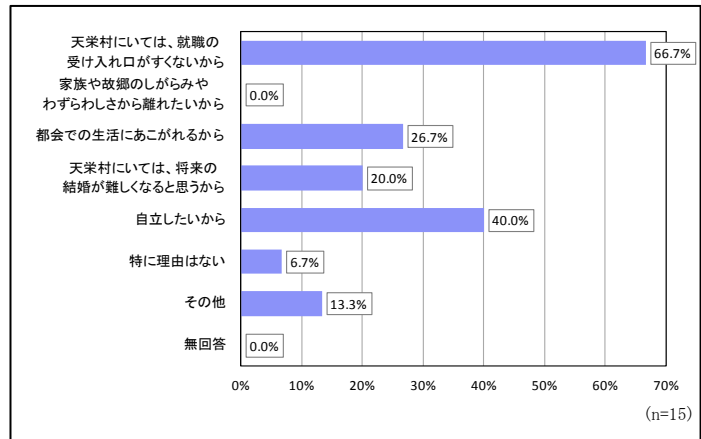
### ⑮進学や就職のときに天栄村に残るか

「村を出て進学・就職したい」が6割となっています。



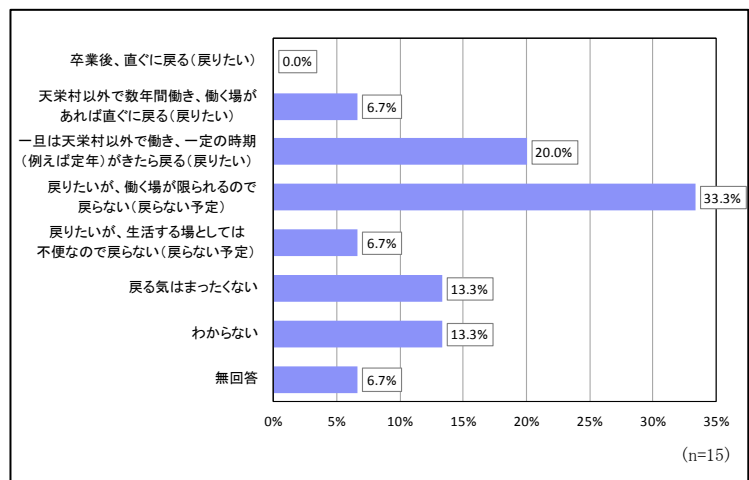
### ⑯村を出て進学・就職したい理由

「天栄村には、就職の受け入れ口がすくないから」が最も多く、7割近くを占めています。



### ⑰村を出て進学・就職後、天栄村に戻りたいか

「戻りたいが、働く場が限られるので戻らない（戻らない予定）」が33.3%と最も多く、次いで「一旦は天栄村以外で働き、一定の時期（例えば定年）がきたら戻る（戻りたい）」が20.0%となっています。

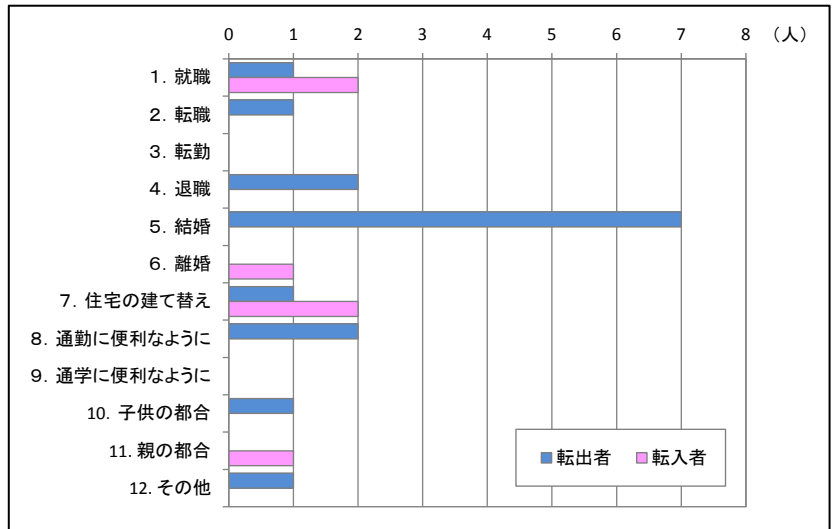


## ～参考～ 転出入アンケートの結果（平成 28 年 1 月現在）

平成 27 年 9 月～平成 28 年 1 月の間、転出・転入の届け出のあった方に窓口で実施したアンケート結果は下記となります。【回答者数：転出者 16 名／転入者 6 名】

### ◆転出・転入の最も大きなきっかけ

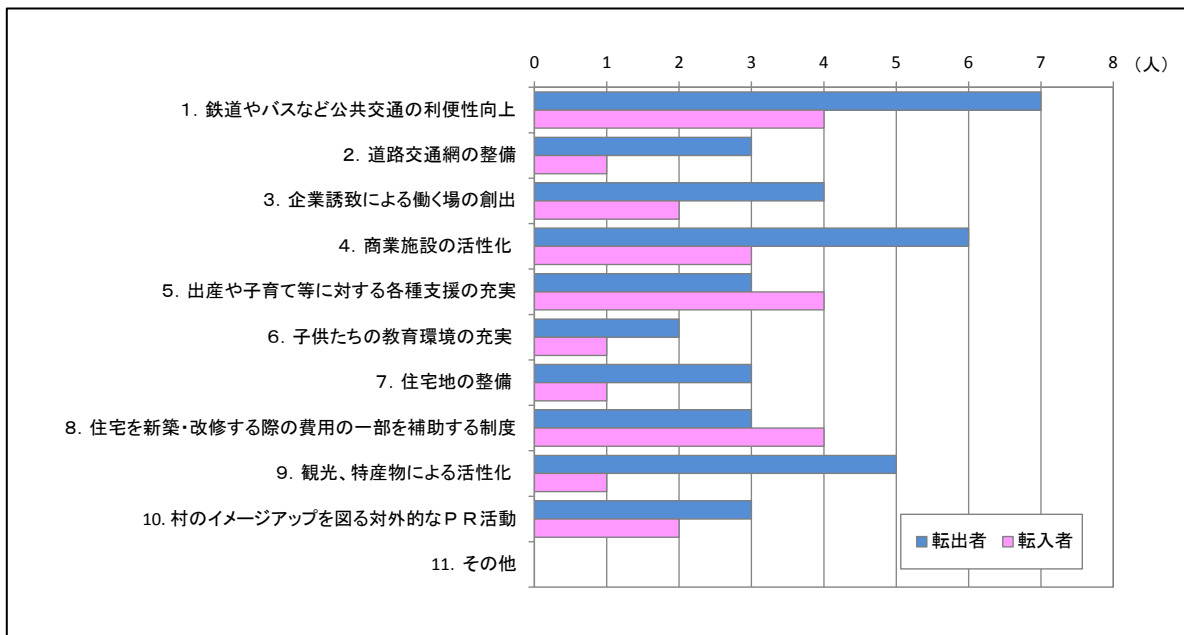
転出者では「結婚」が最も多く 7 人、転入者では「就職」「住宅の建て替え」が 2 名ずつとなっています。



### ◆居住者を増やすために村が取り組むべき定住支援策

転出者では「鉄道やバスなど公共交通の利便性の向上」が最も多く 7 人、次いで「商業施設の活性化」6 人、「観光、特産物による活性化」5 人となり、地域経済の活性化を求める声が多くなっています。

転入者では「鉄道やバスなど公共交通の利便性の向上」「出産や子育て等に対する各種支援の充実」「住宅を新築・改修する際の費用の一部を補助する制度」が 4 名ずつとなり、暮らしの支援を求める声が多くなっています。



## 2 目指すべき将来の方向性

天栄村の人口に関する目指すべき将来の方向は、次の考えを基本とします。

---

### ■自然減少の抑制 ～ 結婚・出産に関する希望の実現 ～

「出会い」「結婚」「出産」「子育て」とそれぞれのステージに対応した切れ目のない支援体制の充実により、若い世代の結婚・出産に関する希望の実現をサポートし、出生数減少の抑制を図ります。

### ■社会減少の抑制 ～ 転入促進・転出抑制に向けた取り組みの推進 ～

住む場所と同時に定住のための必須条件となる「働く場所」の確保とともに、住民誰もが暮らしやすいと思える生活環境を形成することによる転入促進・転出抑制を図り、転入超過への転換を目指します。

### ■人口減少社会を見据えたむらづくりの推進

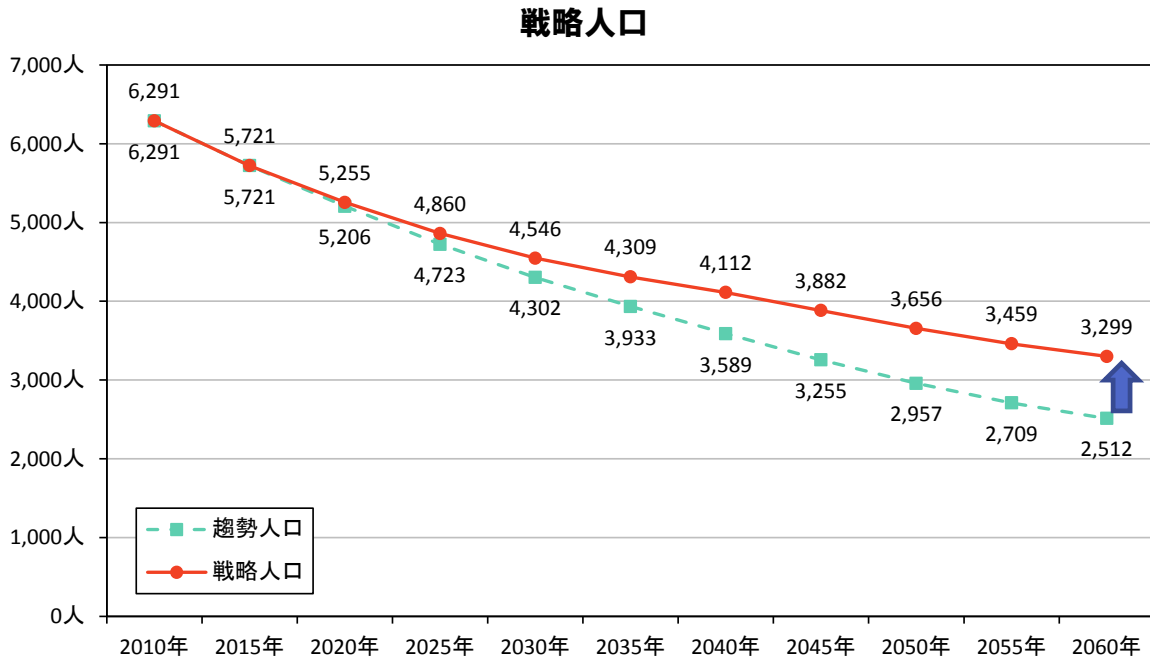
現在の村の活気を今後も維持し、さらに向上させていくため、自然減少・社会減少を抑制する様々な取り組みを推進する一方で、人口減少社会を見据えた新たなむらづくりに取り組みます。

---

### 3 人口の将来展望

#### (1) 戦略人口

少子高齢化、転出超過といった本村の人口問題に対して、長期的視点から取り組むことにより、2060年において3,300人程度の人口規模を目指します。



(単位: 人)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	6,291	5,721	5,206	4,723	4,302	3,933	3,589	3,255	2,957	2,709	2,512
戦略人口	6,291	5,721	5,255	4,860	4,546	4,309	4,112	3,882	3,656	3,459	3,299

戦略効果 (戦略人口-趨勢人口)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
			49	137	244	376	523	627	699	750	787

なお、戦略人口における合計特殊出生率及び移動数については、次のように仮定しています。  
(前述の Sim 4 と同様)

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
合計特殊出生率	1.49	1.49	1.61	1.73	1.86	2.01	2.14	2.14	2.14	2.14	2.14

	設定										
純定住率	純定住率が2040年までに「1」に上昇し、その後は2060年まで維持するものと仮定。										
移動数 (人)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
	-	-333	-243	-167	-102	-41	14	17	9	5	3

#### 【出生】

県のシミュレーションを踏まえ、合計特殊出生率が天栄村希望出生率まで上昇することを想定。

#### 【移動】

天栄村の社会動態の傾向を踏まえ、且つ総合戦略による施策の効果は急速に表れるものではなく、一定の時間をもって徐々にその効果が表れるものと想定。

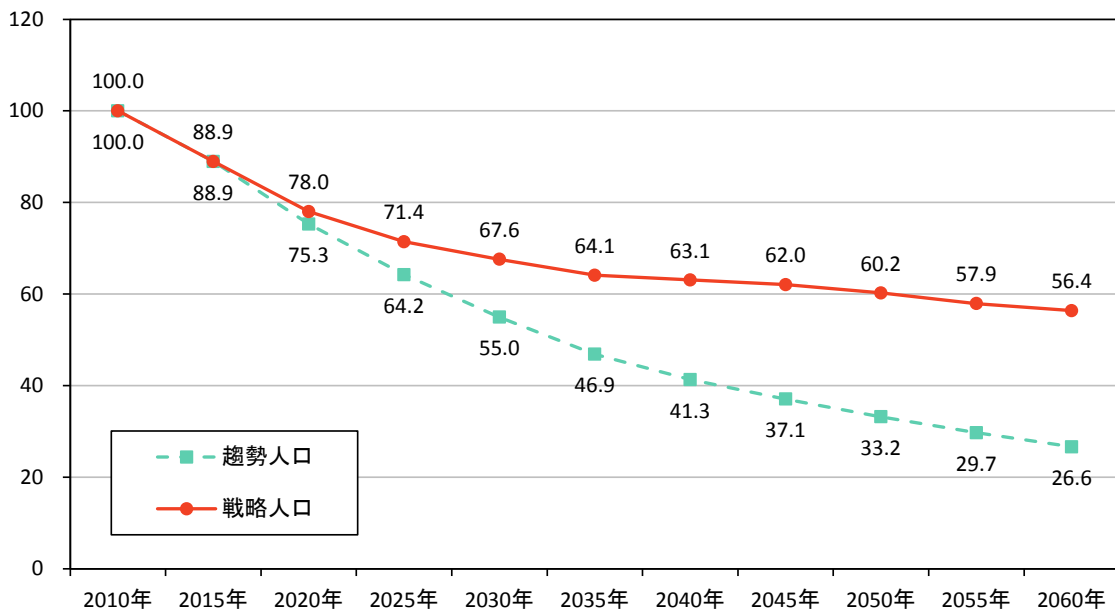
## (2) 戦略人口に基づく将来展望

### ①年齢構造の視点からの展望

#### 【年少人口】

- 0～14歳の年少人口比率は、2010年の12.3%から一旦は11.4%にまで減少するものの、出生率の上昇に伴いその後増加し、2060年には13.3%になることが想定されます。
- しかしながら、全体としての人口規模の縮小に伴い、年少人口は、現状の約半数の水準まで減少することが想定されます。
- 今後は、戦略人口達成の前提となる合計特殊出生率の上昇や、その結果として出現する未就学の子ども数に対応するための子育て支援策を推進するとともに、地域における子ども数の減少を念頭に置いた教育環境の維持・管理の検討が必要とされます。

年少人口（2010=100）



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研推計）	777	691	585	499	427	364	321	288	258	231	207
戦略人口	777	691	606	555	525	498	490	482	468	450	438

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研推計）	100.0	88.9	75.3	64.2	55.0	46.9	41.3	37.1	33.2	29.7	26.6
戦略人口	100.0	88.9	78.0	71.4	67.6	64.1	63.1	62.0	60.2	57.9	56.4

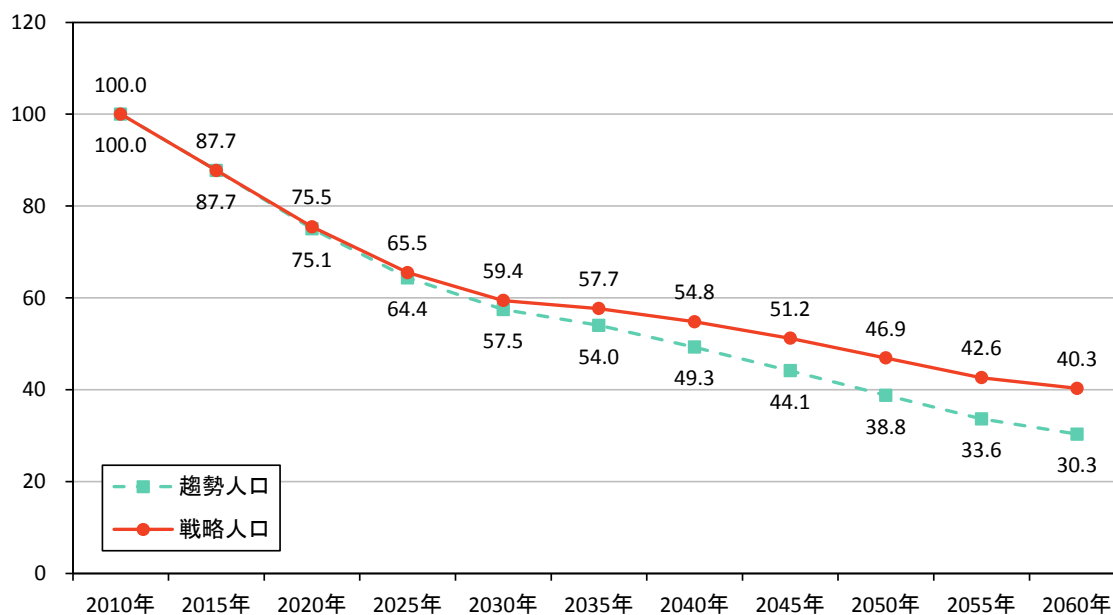
構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口（社人研推計）	12.3%	12.1%	11.2%	10.6%	9.9%	9.3%	8.9%	8.8%	8.7%	8.5%	8.2%
戦略人口	12.3%	12.1%	11.5%	11.4%	11.5%	11.6%	11.9%	12.4%	12.8%	13.0%	13.3%



## 【生産年齢人口】

- 消費面、生産面からその多くを担うことが期待される生産年齢人口についても、長期的に縮小傾向で推移する見通しです。
- 人口構造の観点からは、2010年の61.0%から2060年には46.8%程度にまで減少するものと想定されます。
- 今後は、地域における雇用の創出を図るとともに、経済規模の縮小を抑制するためにも生産性の向上や、労働力人口の減少を和らげるために、女性や高齢者の活用等についても力を入れていくことが重要です。

生産年齢人口（2010=100）



(単位：人)

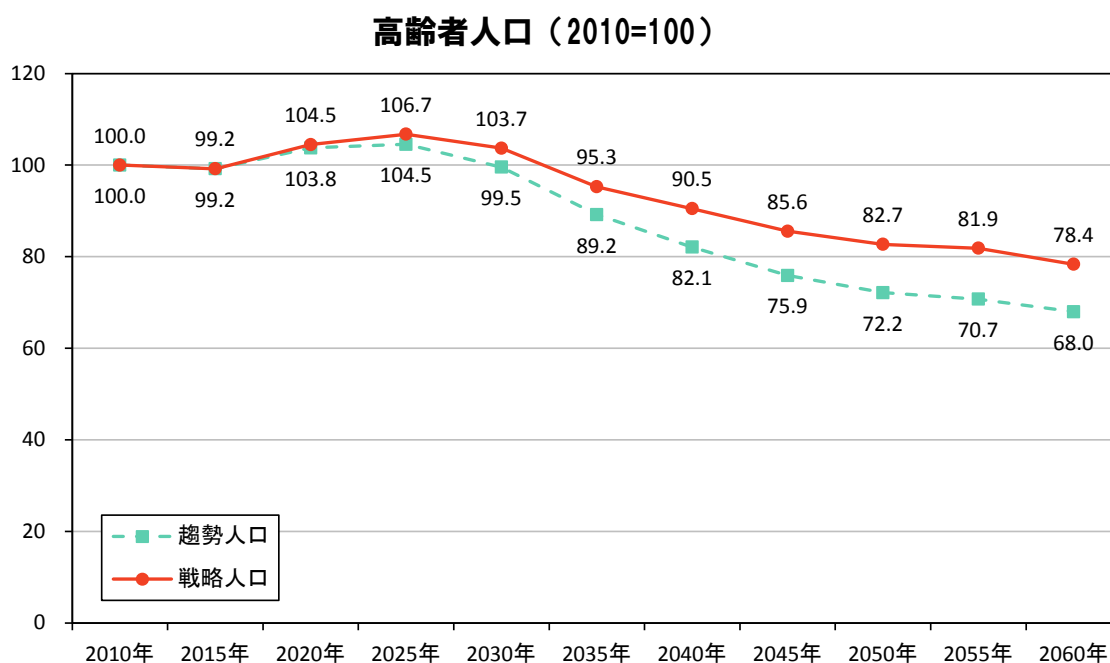
	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	3,834	3,364	2,878	2,468	2,203	2,071	1,889	1,692	1,487	1,290	1,163
戦略人口	3,834	3,364	2,894	2,512	2,279	2,211	2,102	1,963	1,799	1,634	1,545

変化指数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	100.0	87.7	75.1	64.4	57.5	54.0	49.3	44.1	38.8	33.6	30.3
戦略人口	100.0	87.7	75.5	65.5	59.4	57.7	54.8	51.2	46.9	42.6	40.3

構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	61.0%	58.8%	55.3%	52.3%	51.2%	52.7%	52.6%	52.0%	50.3%	47.6%	46.3%
戦略人口	61.0%	58.8%	55.1%	51.7%	50.1%	51.3%	51.1%	50.6%	49.2%	47.2%	46.8%

## 【高齢者人口】

- 高齢者人口は、2025年をピークに減少過程に入ることが想定されますが、人口構造における高齢化率については2010年の26.7%から上昇傾向で推移し、2030年以降一旦減少傾向となりますが、2050年には再び上昇することが想定されます。
- 既にアクティブシニア世代とも呼ばれる団塊の世代は高齢者に含まれており、こうした比較的元気な高齢者に一人でも多く活躍していただくことが、人口減少期における都市の活性化には不可欠と考えられます。



（単位：人）

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	1,680	1,666	1,743	1,756	1,672	1,498	1,379	1,275	1,212	1,188	1,142
戦略人口	1,680	1,666	1,755	1,793	1,742	1,600	1,520	1,437	1,389	1,375	1,316

変化指数	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	100.0	99.2	103.8	104.5	99.5	89.2	82.1	75.9	72.2	70.7	68.0
戦略人口	100.0	99.2	104.5	106.7	103.7	95.3	90.5	85.6	82.7	81.9	78.4

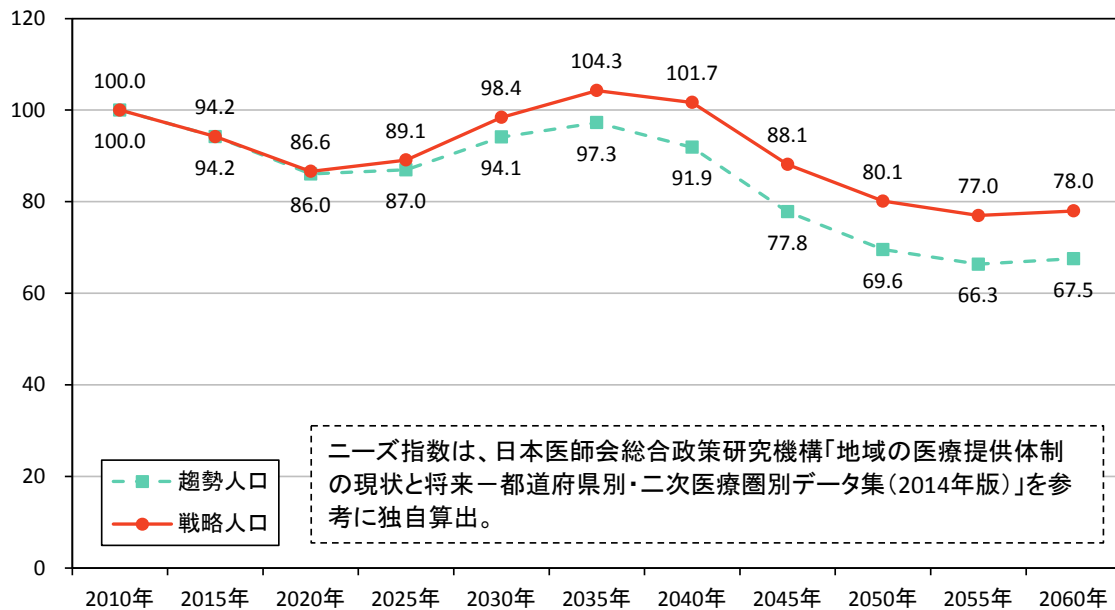
構成比	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
趨勢人口	26.7%	29.1%	33.5%	37.2%	38.9%	38.1%	38.4%	39.2%	41.0%	43.9%	45.5%
戦略人口	26.7%	29.1%	33.4%	36.9%	38.3%	37.1%	37.0%	37.0%	38.0%	39.8%	39.9%

## ②医療・介護ニーズの視点からの展望

### [介護ニーズ]

- 介護ニーズについては、当面の高齢者人口比率の増加、並びに高齢者の高齢化等を背景に、今後も2040年までは現状程度以上のニーズ量が見込まれます。
- したがって、介護サービスについては、今後も長期的観点から施設・サービスの整備・充実を図っていく必要があります。

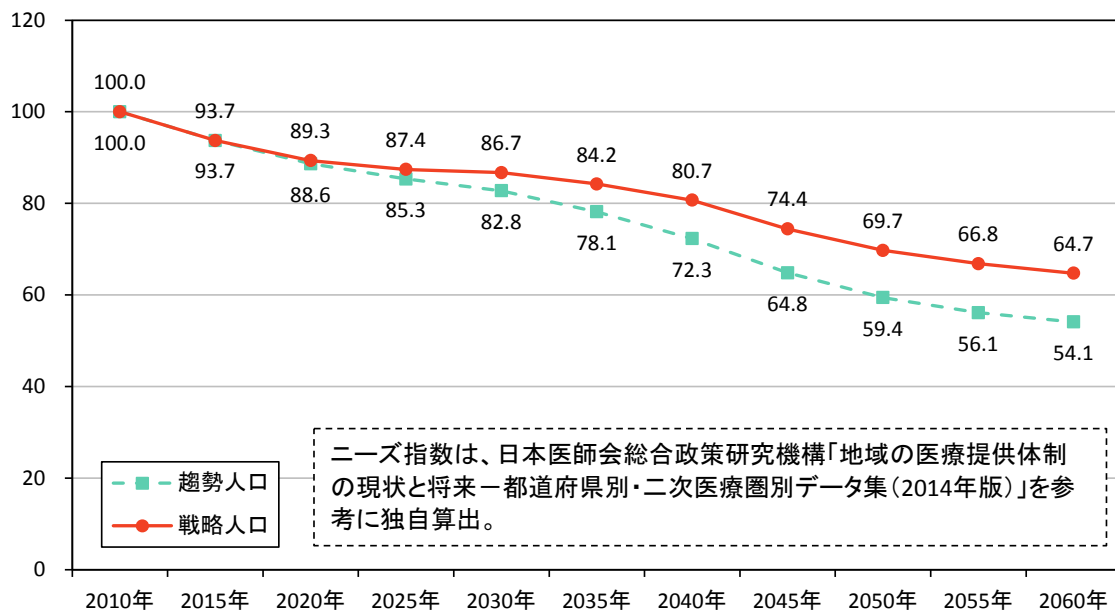
介護ニーズ（2010=100）



### [医療ニーズ]

- 医療ニーズについては、現状のニーズからの増大は見込まれず、縮小していくことが想定されます。

医療ニーズ（2010=100）



### (3) まとめとしての将来展望

- 戦略人口の達成に向けては、地域における雇用や本村への新しい“人の流れ”を創出するとともに、出産や子育てに関する現実と理想とのギャップを解消するための環境整備、人口減少時代に対応した地域社会をつくり出すための取り組みを進める必要があります。
- そうした取り組みを通じて、本村人口の減少を可能な限り抑えることにより、地域における消費の落ち込みを抑制し、雇用や労働力人口を確保し、地域経済・地域社会に対する人口減少の影響を最小限に留めていくことが重要となります。
- 天栄村の将来の姿をともに見据えつつ、地域の豊かな資源と安心・快適な暮らしを次の世代へと受け継いでいくために、戦略人口を達成するための地方創生の取り組みを「天栄村総合戦略」として明らかにし、その着実な遂行を図っていくこととします。